

2020（令和2）年度

事業報告書

（2020年4月1日から2021年3月31日まで）

学校法人 宮城学院

目次

I. 学校法人の概要	- 1 -
1. 基本情報.....	- 1 -
2. 法人の事業目的.....	- 1 -
3. 設置する学校・学部・学科等.....	- 1 -
4. 宮城学院の沿革.....	- 1 -
5. 組織.....	- 3 -
6. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児在籍者数.....	- 4 -
7. 収容定員充足率.....	- 4 -
8. 役員の概要.....	- 5 -
9. 評議員の概要.....	- 6 -
10. 教職員の概要.....	- 8 -
11. 所在地一覧.....	- 9 -
II. 事業の概要	- 10 -
1. 学院全体に関わる事業.....	- 10 -
(1) 建学の精神に基づく教育の充実.....	- 10 -
(2) 中期計画の策定.....	- 10 -
(3) 学術情報館の建設.....	- 10 -
(4) 施設修繕.....	- 10 -
(5) 健全な財政基盤の確立.....	- 10 -
(6) 管理運営体制の強化.....	- 11 -
(7) 施設設備等の整備.....	- 11 -
(8) 募金事業の展開.....	- 12 -
(9) 奨学金制度の見直し.....	- 12 -
(10) 危機管理体制の充実.....	- 13 -
2. 宮城学院女子大学・大学院に関する事項.....	- 13 -
(1) 大学における宗教教育諸活動.....	- 13 -
(2) 教育・研究活動の充実.....	- 14 -
(3) 教育内容の充実に向けて.....	- 14 -
(4) 学生支援の充実.....	- 16 -
(5) 学生募集.....	- 18 -
(6) 社会連携 (MG-LAC 活動を含む).....	- 19 -
(7) 国際交流.....	- 19 -
(8) 生涯学習.....	- 19 -
(9) 大学院.....	- 19 -
(10) 大学後援会活動及び保護者等との連携.....	- 20 -
3. 宮城学院中学校高等学校に関する事項.....	- 20 -
(1) 教育計画全般.....	- 20 -
(2) キリスト教教育活動.....	- 21 -

(3) 学習指導	- 21 -
(4) グローバル・スタディーズ	- 22 -
(5) 海外研修・国際交流・国際寮	- 22 -
(6) 音楽教育	- 23 -
(7) 生徒会指導、生活指導	- 23 -
(8) 進路指導	- 24 -
(9) 入試広報	- 24 -
(10) スクールバス	- 24 -
(11) その他	- 24 -
4. 宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」に関する事項	- 24 -
5. 宮城学院女子大学附属音楽教室に関する事項	- 26 -
6. キリスト教センターに関する事項	- 27 -
7. 資料室に関する事項	- 28 -
III. 財務の概要	- 29 -
IV. 資料	- 37 -
1. 理事会、評議員会の開催状況	- 37 -
(1) 理事会の開催状況	- 37 -
(2) 常任理事会の開催状況	- 38 -
(3) 評議員会の開催状況	- 43 -
2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等	- 44 -
(1) 法人（理事会・評議員会を除く）	- 44 -
(2) 大学院・大学	- 45 -
(3) 中学校高等学校	- 46 -
(4) 大学附属認定こども園「森のこども園」	- 48 -
3. 補助金の状況	- 49 -
4. 入学志願者、合格者、入学者数	- 55 -
5. 寮生数	- 55 -
6. 2020年度就職内定状況	- 56 -

I. 学校法人の概要

1. 基本情報

法人名 学校法人宮城学院
住所 〒980-8511 宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目1番1号
電話/FAX番号 022-279-1311/022-279-4667
ホームページURL <https://www.mgu.ac.jp/home/>

2. 法人の事業目的

寄附行為第3条において、「学校法人宮城学院は、福音主義のキリスト教に基づき、教育基本法及び学校教育法に従い、女子及び幼児に学校教育を行うことを目的とする。」と定め、大学院、大学、高等学校、中学校、認定こども園及びその他の教育研究施設を設置し、女子の初等・中等教育及び高等教育を担い、広く社会に有能な人材を育成することを目的としている。

3. 設置する学校・学部・学科等

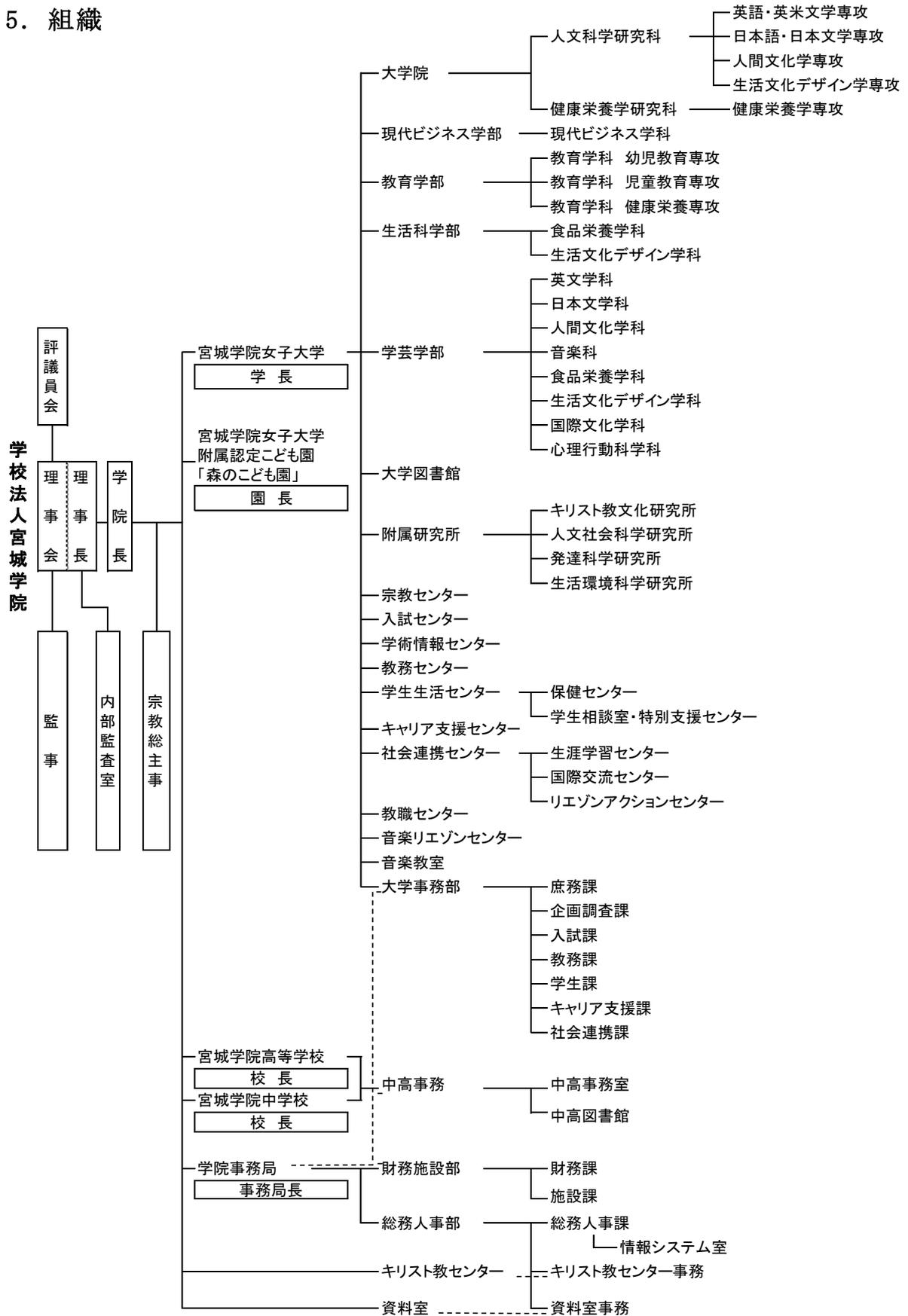
設置する学校	設置年	学部・学科等
宮城学院女子大学	1949年	大学院 人文科学研究科 健康栄養学研究科 現代ビジネス学部 現代ビジネス学科 教育学部 教育学科 生活科学部 食品栄養学科 生活文化デザイン学科 学芸学部 英文学科 日本文学科 人間文化学科 音楽科 食品栄養学科 生活文化デザイン学科 国際文化学科 心理行動科学科
宮城学院高等学校	1948年	全日制課程 普通科
宮城学院中学校	1947年	
宮城学院女子大学附属認定こども園 「森のこども園」	2016年	

4. 宮城学院の沿革

1886年 押川方義、ウイリアム・E・ホーイが中心となり宮城女学校創立
初代校長にエリザベス・R・プールボー就任
1889年 東三番丁162番地に竣工した新校舎に移転
1900年 1年制聖書専攻科設置
1910年 校旗・校章制定
1911年 高等女学校に準ずる学校となる

1912年	3年制家政専攻科設置
1913年	3年制英文専攻科設置
1914年	理事会組織の発足と寄附行為（the Constitution）の制定
1916年	3年制音楽専攻科設置、2年制聖書専攻科設置
1931年	音楽科に師範科及び研究科を設置
1941年	財団法人宮城女学校設立
1943年	宮城女学校を廃止、宮城高等女学校設置、専攻部を専攻科と改称
1946年	学則改正によりキリスト教主義学校へ復す。専門学校令により宮城学院女子専門学校設置（育児科、国語科、外国（英）語科、音楽科）
1947年	新学制により宮城学院中学校設置
1948年	新学制により宮城学院高等学校設置
1949年	宮城学院女子大学設置（学芸学部英文学科、音楽科）
1950年	宮城学院女子短期大学設置（家政科、国文科）
1951年	学校法人宮城学院設立認可
1955年	宮城学院女子短期大学保育科設置
1956年	宮城学院女子短期大学附属幼稚園設置
1959年	大学学芸学部に家政学科を設置
1964年	大学学芸学部に日本文学科、短期大学に教養科を設置
1980年	東二番丁から現在地である桜ヶ丘へ総合移転
1986年	創立100周年
1988年	短期大学に国際文化科を設置
1995年	大学学芸学部人間文化学科を設置、大学院人文科学研究科を設置（英語・英米文学専攻、日本語・日本文学専攻）
1999年	大学院人文科学研究科人間文化学専攻を設置
2000年	大学学芸学部食品栄養学科、生活文化学科、発達臨床学科、国際文化学科を設置
2001年	宮城学院女子短期大学廃止
2005年	大学院人文科学研究科生活文化デザイン専攻を設置
2006年	創立120周年（礼拝堂増築） 高校コース制導入
2007年	大学学芸学部心理行動科学科、児童教育学科を設置
2008年	大学院健康栄養学研究科健康栄養学専攻を設置
2009年	大学院人文科学研究科生活文化デザイン専攻及び大学学芸学部生活文化学科の名称を大学院人文科学研究科生活文化デザイン学専攻及び大学学芸学部生活文化デザイン学科に変更
2016年	創立130周年 大学現代ビジネス学部現代ビジネス学科、教育学部教育学科、生活科学部食品栄養学科、生活文化デザイン学科設置 大学附属幼稚園廃止 大学附属認定こども園「森のこども園」設置
2019年	大学設置70周年 大学学芸学部児童教育学科廃止
2020年	大学学芸学部発達臨床学科廃止

5. 組織



6. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児在籍者数

(2020年5月1日現在)

				入学 定員	学生・生徒・園児数					収容 定員	定員比
					1年	2年	3年	4年	合計		
大 学 院 課 程	人文科学研究科	英語・英米文学専攻	4	-	1	/	/	1	8	0.13	
		日本語・日本文学専攻	4	1	1	/	/	2	8	0.25	
		人間文化学専攻	4	-	1	/	/	1	8	0.13	
		生活文化デザイン学専攻	4	-	-	/	/	1	8	0.13	
	健康栄養学研究科	健康栄養学専攻	4	3	5	/	/	8	8	1.00	
大学院合計				20	4	9	/	/	13	40	0.33
大 学	現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	95	112	110	105	98	425	380	1.12	
	教育学部	教育学科幼児教育専攻	90	94	103	94	92	383	360	1.06	
		教育学科児童教育専攻	50	66	62	52	59	239	200	1.20	
		教育学科健康教育専攻	30	33	35	27	38	133	120	1.11	
	生活科学部	食品栄養学科	100	106	101	112	104	423	400	1.06	
		生活文化デザイン学科	60	71	69	54	46	240	240	1.00	
	学芸学部	日本文学科	100	113	108	113	111	445	400	1.11	
		英文学科	70	82	90	98	77	347	280	1.24	
		人間文化学科	70	75	82	58	64	279	280	1.00	
		心理行動科学科	60	71	70	56	67	264	240	1.10	
		音楽科	25	15	26	24	24	89	100	0.89	
		食品栄養学科	-	-	-	1	-	1	-	-	
		生活文化デザイン学科	-	-	-	-	2	2	-	-	
		国際文化学科	-	-	-	1	6	7	-	-	
大学合計				750	838	856	795	788	3277	3000	1.09
大学院・大学合計				770	842	865	795	788	3290	3040	1.08
高等学校				260	125	136	110	/	371	780	0.48
中学校				160	58	63	52	/	173	480	0.36
認定こども園				定員	未満児	3歳	4歳	5歳	129	120	1.08
				120	30	38	29	32			
総合計				/	1055	1102	986	820	3963	4420	0.90

7. 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
大学	0.95	0.98	1.00	1.02	1.09
大学院	0.50	0.58	0.53	0.38	0.33
高等学校	0.53	0.52	0.49	0.47	0.48
中学校	0.29	0.30	0.33	0.35	0.36
認定こども園	0.76	1.03	0.96	0.96	1.08

8. 役員の概要

定数 理事 15～17 名、監事 2 名（2021 年 3 月 31 日現在）

理事監事	氏名	選任条項	就任年月日	勤務形態	主な現職等
理事長	うみ の みち お 海 野 道 郎	8-1-8 学識経験者 7-3 理事長	2016年11月28日	常勤	併宮城学院 理事長
理事	しま だ まさ よし 嶋 田 順 好	8-1-1 学院長	2014年4月1日	常勤	併宮城学院 学院長
理事	すえ みつ ま き 末 光 眞 希	8-1-2 学長	2019年11月28日	常勤	宮城学院女子大学 学長
理事	まさ き きょう すけ 正 木 恭 介	8-1-4 副学長	2020年4月1日	常勤	宮城学院女子大学 副学長
理事	と の づか あつ こ 戸野 塚 厚 子	8-1-4 副学長	2013年11月28日	常勤	宮城学院女子大学 副学長
理事	ほん だ たつ お 本 田 辰 雄	8-1-5 事務局長	2013年4月1日	常勤	併宮城学院 事務局長
理事	ひら ばやし けん 平 林 健	8-1-6 教職員評議員	2016年7月19日	常勤	宮城学院中学校高 等学校副校長
理事	なが い しょう こ 長 井 祥 子	8-1-7 同窓会長	2016年5月15日	非常勤	
理事	ほ しの けい こ 保 科 けい子	8-1-8 学識経験者	2016年11月28日	非常勤	日本基督教団 福島荒井教会牧師
理事	た なか ひろ し 田 中 弘 志	8-1-8 学識経験者	2013年11月28日	非常勤	
理事	いし かわ みき こ 石 川 幹 子	8-1-8 学識経験者	2013年11月28日	非常勤	中央大学研究開発 機構 機構教授
理事	おお いずみ かず ぬき 大 泉 一 貫	8-1-8 学識経験者	2013年11月28日	非常勤	
理事	さ く ま けい こ 佐久間 敬 子	8-1-8 学識経験者	2010年11月28日	非常勤	弁護士
理事	ま にわ ひろし 間 庭 洋	8-1-8 学識経験者	2019年11月28日	非常勤	
理事	すぎ もと きみ こ 杉 本 きみ子	8-1-9 評議員	2016年11月28日	常勤	宮城学院中学校高 等学校校長代行
理事	ふじ さわ とも こ 藤 沢 智 子	8-1-9 評議員	2020年5月26日	非常勤	東北放送㈱ 取締役
監事	ほ さか よし お 保 坂 和 男	9	2013年11月28日	非常勤	
監事	たけ だ まさ ひ と 武 田 雅比人	9	2010年11月28日	非常勤	公認会計士

※ 本学院は、寄附行為の規程に基づき、学外理事及び監事との間で責任限定契約を締結している。当該責任限定契約の概要は、私立学校法第 44 条の 2 の責任について、善意でかつ重大な過失がないときは、法令に定める額を負担の限度額とするというものです。

9. 評議員の概要

定数 31～35 名（2021 年 3 月 31 日現在）

氏名	選任条項	就任年月日	主な現職等
しま だ まさ よし 嶋 田 順 好	28-1-1 学院長	2014 年 4 月 1 日	併宮城学院 学院長
すえ みつ ま き 末 光 真 希	28-1-1 学長	2016 年 11 月 4 日	宮城学院女子大学 学長
ほん だ たつ お 本 田 辰 雄	28-1-1 事務局長	2013 年 4 月 1 日	併宮城学院 事務局長
ほし ゆう じ 星 祐 二	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	宮城学院女子大学 教授
いま ばやし なお き 今 林 直 樹	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	宮城学院女子大学 教授
てん どう むつ こ 天 董 睦 子	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	宮城学院女子大学 教授
こん の せい こ 紺 野 聖 子	28-1-1 教職員	2016 年 11 月 4 日	宮城学院女子大学 副手
ひら ばやし けん 平 林 健	28-1-1 教職員	2009 年 10 月 6 日	宮城学院中学校高等学校 副校長
おおくぼ なお き 大久保 直 樹	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	宮城学院中学校高等学校 宗教主事
まる やま ひとし 丸 山 仁	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	宮城学院中学校高等学校 教頭
さくら い ゆ み 桜 井 由 美	28-1-1 教職員	2019 年 5 月 28 日	宮城学院女子大学 大学事務部庶務課長
わた べ しんたろう 渡 部 伸太郎	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	宮城学院中学校高等学校 事務長
あか い ふみ ゆき 赤 井 史 之	28-1-1 教職員	2019 年 11 月 4 日	宮城学院女子大学 大学事務部学生課長
い とう ひろ こ 伊 藤 裕 子	28-1-2 同窓会	2016 年 11 月 4 日	
さ とう ゆ み こ 佐 藤 祐 見 子	28-1-2 同窓会	2016 年 11 月 4 日	
しろ き えつ こ 白 木 悦 子	28-1-2 同窓会	2016 年 11 月 4 日	
に むら ゆ み こ 仁 村 由 美 子	28-1-2 同窓会	2016 年 11 月 4 日	
いろ かわ さち こ 色 川 幸 子	28-1-2 同窓会	2019 年 11 月 4 日	
いわ い ふみ え 岩 井 富 美 枝	28-1-2 同窓会	2019 年 11 月 4 日	稲の花株 代表取締役
うつ み さち こ 内 海 祥 子	28-1-2 同窓会	2019 年 11 月 4 日	

の 野	が 川	たく 卓	こ 子	28-1-2	同窓会	2019年11月4日	
ふか 深	だ 田		ひろし 寛	28-1-3	教職者	1990年10月25日	仙台キリスト教育院 理事長
つか 塚	もと 本	やす 恭	こ 子	28-1-3	教職者	2010年3月10日	日本基督教団 酒田教会牧師
せ 瀬	や 谷		ひろし 寛	28-1-3	教職者	2019年11月4日	日本基督教団 仙台東一番丁教会牧師
はし 橋	もと 本		あきら 章	28-1-4	学識経験者	2010年3月10日	
すが 菅	わら 原	ひろ 裕	のり 典	28-1-4	学識経験者	2010年11月4日	(株)清月記 代表取締役
さ 佐	とう 藤	ひろ 博	み 美	28-1-4	学識経験者	2013年11月4日	東通インテグレート(株) 代表取締役社長
すぎ 杉	もと 本		きみ 子	28-1-4	学識経験者	2016年11月4日	宮城学院中学校高等学校 校長代行
き 木	むら 村	より 順	こ 子	28-1-4	学識経験者	2016年11月4日	
お 小	の 野	き 木	かつ 克	28-1-4	学識経験者	2018年5月22日	(株)河北新報社 専務取締役
ふじ 藤	さわ 沢	とも 智	こ 子	28-1-4	学識経験者	2019年5月28日	東北放送(株) 取締役
たか 高	はし 橋		ひろし 博	28-1-4	学識経験者	2019年11月4日	(株)仙台銀行 相談役
くり 栗	た 田	とし 敏	みつ 光	28-1-4	学識経験者	2019年11月4日	(株)アパートナー 副会長
きく 菊	ち 池	いさ 勇	お 夫	28-1-4	学識経験者	2020年5月26日	

10. 教職員の概要

教職員数

(2020年5月1日現在)

区分		教育職員	教務職員※ ¹²	事務職員	合計
法人	本務			9 ※ ¹	9
	兼務			2	2
大学	本務	113 ※ ²	28 ※ ³	47 ※ ⁴	188
	兼務	326	2	10	338
高等学校	本務	31 ※ ⁵	1 ※ ⁸	3 ※ ⁶	35
	兼務	20		4	24
中学校	本務	19 ※ ⁷	1	2 ※ ⁹	22
	兼務	5			5
認定こども園	本務	19 ※ ¹⁰		1 ※ ¹¹	20
	兼務	7		6	13
小計	本務	182	30	62	274
	兼務	358	2	22	382
合計		540	32	84	656

※1 事務嘱託職員 3名を含む。

※2 特任教員・特命教員 41名を含む。

※3 教務嘱託職員、スポーツ振興専門員、コーディネーター 計 15名を含む。

※4 専門職嘱託職員、事務嘱託職員 7名を含む。

※5 養護教諭（専任）1名及び契約教員 8名を含む。

※6 寮職員（嘱託職員）1名を含む。

※7 契約教員 6名を含む。

※8 教務嘱託職員 1名。

※9 事務嘱託職員 1名含む。

※10 嘱託保育教諭 14名を含む。

※11 管理栄養士 1名。

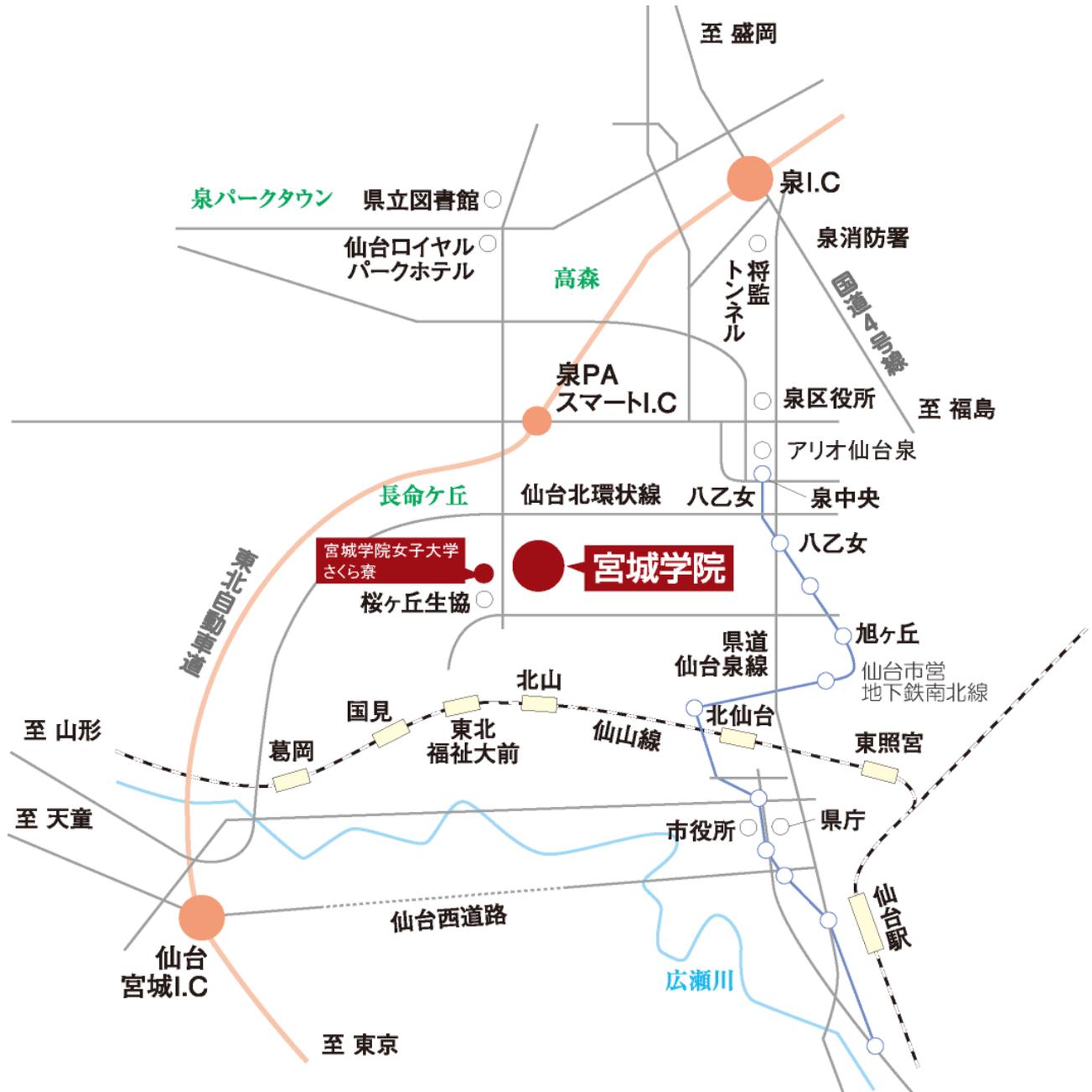
※12 教務職員とは大学は副手・助手、中学校高等学校では実習助手及び教務嘱託職員を指す。

教職員の平均年齢

区分	教育職員	教務職員	事務職員	全体
本務	51.71 歳	40.90 歳	45.16 歳	49.05 歳
兼務	52.50 歳	55.50 歳	39.64 歳	51.78 歳
合計	52.24 歳	41.81 歳	43.71 歳	50.64 歳

11. 所在地一覧

学校法人宮城学院	仙台市青葉区桜ヶ丘九丁目 1-1
宮城学院女子大学	同 上
宮城学院高等学校	同 上
宮城学院中学校	同 上
宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」	同 上



II. 事業の概要

1. 学院全体に関わる事業

(1) 建学の精神に基づく教育の充実

本学院はキリスト教教育をこども園・中学校・高等学校・大学・大学院までの一貫教育の根本に据えて、全学院的にその充実に取り組んできた。しかしながら 2020 年度は、未曾有のコロナ禍に見舞われ、例年とは全く異なる取り組みをせざるを得なくなった。厳しい試練の中にあっても、「神を畏れ」ることを目に見える具体的な形で現実化する場としての礼拝に関しては、法人を含むそれぞれの部において可能な限り対面礼拝を志向しつつ、状況に応じて放送礼拝、動画配信などの手段を用いて堅持することができた。また、礼拝以外の様々なキリスト教活動は大幅に縮小せざるを得なかったが、ハートフルボランティア活動を担うグループの中には、工夫をこらしつつ独自の活動を展開した団体もあったことは高く評価できる。中高、大学を問わず新入生をキリスト教活動に招き入れる十分な機会を失したことは、今後の活動の継続性を維持していくためにも大きな課題となる。

(2) 中期計画の策定

2001 年度にスタートした中期計画は、5 年ごとに見直しながら一定の成果をあげることができた。第 5 次となる今期は、大学進学者がいよいよ減少期に入ると言われる中、学生生徒等が成長を実感できる教育の提供が重要となる。そのために、最先端の教育手法の確立、一人一人に向き合ったサポートを行うなど、硬軟織り交ぜてこれまでも定評のある面倒見の良い教育を実践する。第 5 次中期計画（2021 年度～2025 年度）は、中期ビジョンとして「未来を切り拓く知性、品性、共感力を身につけ、隣人愛をもって歩む女性を育成する」を掲げ、教育、研究、社会貢献、国際交流、経営ごとの重点ビジョン達成のために基本戦略、個別戦略を定めた。5 年後のあるべき姿を具体的に見据えて PDCA サイクルを回し、計画達成に邁進する。

(3) 学術情報館の建設

学術情報館検討委員会（大学）において、学長主導の下、設計者と共に新館建設、既存建物改修の検討を進めた。新館建設については、コロナ禍ということもあり、更なる検討が必要との理事会見解を踏まえ、引き続き検討を行うこととなった。

(4) 施設修繕

桜ヶ丘キャンパス移転から 40 年が経過し、建物・設備の経年劣化への対処が急務となっている中、大規模修繕を効果的かつ効率的に実施するために、施設修繕準備調査を行った。今後、当該施設修繕準備調査報告を基礎にして大規模修繕計画を策定することになるが、緊急に実施すべき工事として判定されたものを最優先して実施する。本年度は、大学講義館の外壁改修に着手した。

(5) 健全な財政基盤の確立

本年度は第 4 次中期計画（2016 年度～2020 年度）の最終年に当たる。前記大規模修繕に着手したことから、学院全体の収支は厳しい状況が続いているが、本学院の主要施策となる学生生徒等の確保については、大学は目標を大きく上回り、中高は伸び悩んだ。

(6) 管理運営体制の強化

ア 法人の経営・運営体制等の改善

改正私立学校法を踏まえ役員の職務及び責任の明確化等に関する規定が整備されたことから、

従来から実施している関連当事者との取引に関する調査に加え、理事の現職確認・競業取引と利益相反取引についての調査の実施、責任限定契約の締結（外部理事・監事）を行った。主体的責任と役割を更に明確化しつつ、学院全体の管理運営体制整備を含めて、学校法人としての公共性・運営の透明性の確保に努めるとともに、効率的な運営を目指して諸課題に取り組んだ。

イ 監査体制の強化

内部監査では、監査項目として業務監査並びに会計監査を設け、業務監査では共通項目、部署固有項目を設定し、学院内規程を含めたコンプライアンスへの取組の適切性と業務運営の合理性及び効率性を中心に検証を行った。本年度は2部署に対して監査を行った。監事監査は、上半期・下半期の現金預金有価証券の監査、予算案・決算案等の監査を実施するとともに、中高、大学におけるICT（情報通信技術）活用の状況監査を行った。さらに、理事会、評議員会に出席するとともに、内部監査室、公認会計士との意見交換を行った。公認会計士監査は年6回（延べ10日）、定期監査、現金実査確認の監査、決算監査として行い、常任理事会構成員と監事との合同懇談会を行うなど、監査充実に向けて取り組んだ。

ウ 職員の能力開発

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、集合型研修は全て中止となったが、日本私立大学連盟等で実施されるオンライン研修の情報を都度発信して、職員への受講を促し、スキル向上を目指して受講させた。また、事務職員全体研修をオンライン形式で実施し、学院長が「人間性の開発」を踏まえた「人格の完成」を目指す教育研究共同体「一建学の精神の担い手としてキリスト教学校職員とは一」と題し、講演を行った。

(7) 施設設備等の整備

ア 施設設備の整備事業

・ 温水ボイラー及びポンプ更新工事	46,200,000 円
・ 分電盤更新設計	8,844,000 円
・ 礼拝堂屋上防水及び外壁漏水対策工事等	27,547,000 円
・ 礼拝堂ベルタワー耐久性強化改修工事等	33,481,000 円
・ ネットワーク機器更新等	10,098,000 円
・ 大学講義館外壁改修工事等	27,446,540 円
・ 大学第二講義館耐震工事等	30,965,000 円
・ 青桜シャロン寮改修工事	31,350,000 円
・ その他の工事	28,532,900 円
合 計	244,464,440 円

イ 臨時的事業計画

・ 大学 講義館教室視聴覚設備更新	3,014,000 円
・ 大学 紫外可視分光光度計更新	1,144,000 円
・ 大学 電子黒板	1,042,500 円
・ 大学 パススルー冷蔵庫更新	1,045,000 円
・ 大学 準備室調理台・調理機器更新	1,353,000 円
・ 大学 演習室机・椅子更新	4,098,600 円
・ 大学 製図室整備	3,964,428 円
・ その他の事業	8,961,300 円
合 計	24,622,828 円

ウ 臨時的事業計画（補助金事業）

・ 大学音楽館東側法面補修工事等	17,050,000 円
合 計	17,050,000 円

(8) 募金事業の展開

寄付者の多様な想いを酌み取ることができるよう、多彩な寄付メニュー（①学生・生徒等の奨学基金、②学生・生徒等の活動支援、③教育・研究振興支援、④施設・設備充実支援等）を用意、これらをオリーブ募金として一体化し、募金事業を展開した。新型コロナウイルス感染症に対する学生生徒への緊急支援募金を新設し、本学院の役員、教職員、同窓生、保護者など、多くの皆様のご賛同を得て、ご寄付いただき、学生生徒への支援として用いることとなる。2020年度の募金総額は36,091,255円であった。

(9) 奨学金制度の見直し

本年度から、高等教育の修学支援新制度並びに新修学支援金制度が導入され、本学院が長い間支援対象としてきた家計困窮者の多くが、修学支援を受けることができるようになった。また、新型コロナウイルス感染症による家計困窮者への支援として、緊急修学支援給付奨学金制度を新設した。本年度奨学金等の事業実施状況は以下のとおり。

○宮城学院奨学会奨学金（貸与・継続者のみ）	
大学 18名	計 14,217,000 円
○宮城学院奨学会奨学金（給付及び事前予約型給付）	
大学院 1名 大学 5名	計 1,441,000 円
○宮城学院女子大学奨学金（給付）	
大学 10名	計 2,700,000 円
○宮城学院同窓会奨学金（給付）	
大学 10名 高校 8名 中学 4名	計 3,000,000 円
○宮城学院プールボー奨学金（給付・旧制度・継続者のみ）	
大学 9名	計 1,476,600 円
○宮城学院女子大学学業特待生（給付・旧制度・継続者のみ）	
大学 5名	計 2,255,000 円
○宮城学院学業特待奨学金（プールボー奨学金）（給付）	
大学 9名 高校 31名 中学 2名	計 16,574,774 円
○激甚災害（台風 19号）による授業料減免	
大学 7名	計 3,552,500 円
○宮城学院新型コロナウイルス感染症緊急修学支援給付奨学金	
大学 20名	計 5,037,200 円
○宮城学院女子大学授業料減免（高等教育の修学支援新制度）	
大学 291名	計 168,346,400 円
○宮城学院高等学校入学金減免	
高校 5名	計 175,000 円

(10) 危機管理体制の充実

2014 年度から毎年実施してきた全学生・生徒・園児・全教職員の参加による「全学院総合防災訓練」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、シェイクアウト訓練のみを実施した。東日本大震災から 10 年を迎えた今年 2 月に福島県沖を震源とするマグニチュード 7.3（最大震度 6 強）の地震、3 月に宮城県沖を震源とするマグニチュード 6.9（最大震度 5 強）の地震が発生した。両日とも学校運営を行っていない時間帯であったことから、混乱はなく、桜ヶ丘キャンパスに特に大きな被害もなかったが、防災意識の必要性・重要性を改めて認識したところである。2020 年 2 月以降は、新型コロナウイルス感染症発生による対応として、危機管理委員会の開催、全学院緊急対策本部会議の開催、新型コロナウイルス感染症対応ガイドラインを作成し、随時更新を行っている。また、設置学校ごとに緊急対策本部が設置され、設置学校の実情に合わせ迅速な対応がなされた。さらに学内外に向けて迅速で的確な情報発信を行うなど、感染拡大防止対策を徹底しつつ学校運営の維持に努めた。

2. 宮城学院女子大学・大学院に関する事項

2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、4 月 3 日に村井県知事・郡仙台市長の共同記者会見による外出自粛要請を出され、更に 4 月 16 日には全都道府県を対象とする緊急事態宣言が発表されたことから、感染予防対策のための様々な制限の中で始まることとなった。

本学においては、危機管理に対応する新型コロナウイルス感染症対策組織として、「新型コロナウイルス対策タスクフォース」を設置し、学生・教職員の安全を最優先に考慮し、国・文部科学省を始めとする省庁の指示にも注視しながら方針を決定し、学内外に情報を発信してきた。

4 月 3 日に予定していた入学式は中止とし、ガイダンス・健康診断等も中止又は延期とせざるを得なかった。前期授業に関しては、面接授業を必要とする一部授業を除き、遠隔授業の形態とし、各教員は教育の質を担保するため、様々な工夫を行い、授業運営を行ってきた。その他、様々な学内行事についても中止する等の制限を余儀なくされた。

しかし、約半年遅れとなったが、9 月 9 日から 11 日にかけて 2020 年度新入学生の入学式を開催することができた。また、例年に比べて小規模にはなったが、10 月 10 日には学内者限定で入場型の大学祭、翌 11 日にはオンライン形式での芸能人のトークショーを実施させることができた。2019 年度は各教室に分散形式で実施した学位記授与式も 2020 年度は学生のみでの出席にはなったが、大学講堂で開催することができた。

依然、新型コロナウイルス感染症の終息は見えないが、今後も学生・教職員の安全確保に努めながら、大学の運営機能を維持できるよう対応していく。

(1) 大学における宗教教育諸活動

福音主義キリスト教に基づく建学の精神の実質化を目指し、キリスト教主義学校の社会的責任を果たすため、以下の活動を積極的に展開した。

ア 教育活動全般

「キリスト教学」（1 年次必修）と「キリスト教と現代社会」（3 年次必修）においては、自己受容の意義と共生社会の実現の重要性を伝えることを主眼とする講義を提供した。一部授業では教育推進研究費を活用し、性的少数者や震災被災者による体験談、暴力から女性を守るケアハウスのスタッフによる事例紹介などを動画撮影して配信し、差別や暴力の実態を当事者の言葉から学生が知ることができるよう努めた。

イ 宗教教育活動

コロナ禍のため前期中は対面での定期礼拝が不可能となり、礼拝の動画を作成して 9 回配信した（YouTube 上での限定公開）。後期については週 2 回の割合で対面礼拝を 19 回行い、礼拝

動画も 9 回配信した。対面・動画の選択があると大半の学生は動画のほうを選ぶため、毎回の対面礼拝の出席者数は平均 11 名（前年度は 116 名）にとどまった。しかし、「(動画の場合) 何度も再生して見ることができるので良かった」との声も学生から寄せられた。動画の視聴総回数は前期が 1773 回、後期が 3581 回となった。

6 月に予定されていたキリスト教教育特別集会においては、トランスジェンダー女性の日本聖公会司祭・アンブロジーア後藤香織師に講師を依頼していたが、コロナ禍のため中止を余儀なくされた。代替措置として、宗教センターが発行しているメッセージ集『あかり』2020 年度版に後藤司祭の原稿「トランス女性の受け入れを前に」を掲載した（『あかり』は 2021 年 3 月に刊行）。LGBT の定義、トランスジェンダーに対する誤解や偏見について当事者の立場から説明するものであり、本学の「共生のための多様性宣言」に対する理解を促進するための好材料となることが期待される。

クリスマス特別礼拝は、日本キリスト教団三津教会の森分望牧師に説教動画の作成を依頼していたが、ご病気のため急きょ日本キリスト教団猪苗代教会の新田恭平牧師に依頼し、12 月 14 日に動画配信を行った。

3 月 17 日の卒業礼拝は、当初説教を依頼していた桜美林大学の長谷川（間瀬）恵美准教授に來仙を乞うことが困難となったため、嶋田順好学院長を説教者に迎えて対面で行われた。学生 39 名、教員・関係者 9 名が出席した。

さくら寮では、4 月の入寮式の他に 12 月にクリスマス礼拝を執り行うことができたが、6 月の礼拝は中止となった。

音楽科オルガン・ピアノ専攻の 4 年生を対象とした奏楽者ガイダンスは、例年より半年遅れて 10 月に行い、礼拝と奏楽の意味を説明して理解と協力を求めた。

カルト宗教団体の関連サークルが仙台市内で勧誘活動を展開しているとの情報があつたため、街頭勧誘に対して注意を喚起するポスターを学内の掲示板に掲示した（12 月）。

礼拝堂の入口ホールにおいて、絵本を通じてキリスト教のテーマを紹介する展示企画を YWCA との共催で開始し、これまでに「絵本でほっこりクリスマス」（12 - 1 月）、「旅立ちの季節にこの絵本」（3 月）の 2 回を行った。

（2）教育・研究活動の充実

図書館及び学科に配分された予算による図書購入は、おおむね適切に処理され、学生や教員の利用に供している。

収蔵能力の拡大については、遅れていた中間所蔵庫の設置に着手することができ、収蔵能力超過状態への抜本的解決に向けて進めることができた。また、2020 年 4 月より「図書館利用規程」が施行されたことにより、非常勤講師を含む教職員への貸出期間を年度内としたことで、明確に現物確認ができるようになった。

学内研究費の配分は適切に行ったが、新型コロナウイルスの影響により、予定していた出張を中止するなど、費目変更を余儀なくされた。また、遠隔授業支援として教育研究費を一律に増額した。

大学附属の 4 研究所については、コロナ禍における制約を受けながらも、オンラインによる研究会・講演会、紀要発行などが活発に行われ、研究成果も出した。

外部資金に関する情報提供についても、担当部局から教職員に向けて行った。

（3）教育内容の充実に向けて

ア 新規カリキュラムの円滑な運用

2020 年度は新型コロナウイルス感染症のまん延に伴う非常事態宣言（2020 年 4 月 7 日）の

発出に伴い、2020年度授業開始を5月7日まで遅らせ、遠隔授業を行う異例の対応でスタートした。授業資料配信型として UNIVERSAL PASSPORT EX（ユニパ）を最大限に活用し、またビデオ会議・授業コミュニケーションツールとして Microsoft Teams を整備した。このような状況下にあっても、各教員が工夫した授業を展開し、一定以上の成果を上げることができた。改組転換に伴う学科の統廃合に関しては、学芸学部生活文化デザイン学科在籍学生の卒業により、国際文化学科のみとなった。休学中の学生であることから、当該学科を中心に引き続き支援していく。

イ 高大接続事業の充実

2020年度は、MG 高大連携授業、総合型選抜及び学校推薦型選抜の合格者を対象とした入学前学習並びに早期合格者の集いを計画した。入学前学習は滞りなく実施できた。MG 高大連携授業は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により前期は中止とせざるを得なかったが、対面授業を開始した後期に前期分も含め実施することができた。早期合格者の集いは、第3波の影響により対面実施は中止となった（学科によって遠隔対応で実施）。また、高校の新教育課程における探求学習への対応として、宮城県立泉高校からの依頼により、泉高校で行われた高校3年生対象の「総合的な学習の時間」への協力を行い、合計4名の教員が生徒の支援を行った。

ウ 教育内容の質向上に向けた評価体制の充実

教学マネジメントタスクフォースにおいて3ポリシーの改定作業を開始し、それに伴いカリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ディプロマサブリメントの検討を始めている。ディプロマサブリメントはDP（Diploma Policy：学位授与方針）別GPA（Grade Point Average）表示の工夫のほか、全米カレッジ・大学協会（Association of American Colleges & Universities）の Value Rubric を参考にした内部アセスメント、現在活用している PROG※を外部アセスメントとして組み合わせた学修成果の可視化を計画している。

※「PROG」＝㈱リアセック社の内部質保証システム確立のための客観アセスメントテスト

エ 効率的な科目開講と適切な非常勤講師の配置

専任教員と非常勤教員の人員比率は約2：8であり、特に音楽科等において非常勤教員への依存率が高い。また、授業担当比率は専任教員と非常勤教員の比率は約4：6となっている。カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの作成等を通じて効率的な科目開講の検討を行い、次期カリキュラム改定に向けた取組に活用すべく計画を進めている。また、特に語学系の少人数クラスやアカデミックスキル等の科目でe-ラーニング活用の検討を開始している。カリキュラム改定は3ポリシーと連動するため、教育課程改定内規を定め、あわせて、適切な非常勤講師の配置を行うため非常勤講師任用内規を策定した。

オ 単位の実質化に向けた対応

新型コロナウイルス感染拡大を防止するために導入した遠隔授業実施により、1単位45時間の学修が求められることへの理解が進み、単位の实質化に対する意識が向上した。また適切な学習評価を行うため、パフォーマンス系科目に対しルーブリック評価（学習到達度等を示す評価基準を定めて評価する方法）の推奨を開始した。

カ 教育内容改善のための方策

MGU スタンダード※で展開しているリベラルアーツ教育と学科専門教育との関係を明確にする検討を行った。この取組は完了しておらず、次年度に継続する。また、LMS（ラーニングマネジメントシステム）を中心としたICT活用とその展開について検討し、9回のFD研修会を実施した。

※「MGU スタンダード」＝本学のすべての学生に身に付けてもらいたい3本の柱から構成される基礎教育

(4) 学生支援の充実

ア 学修支援について

学修支援活動として学術情報館既存建物改修と連動する形でラーニングコモنزの検討を行った。また、遠隔授業システムの導入をきっかけに、今後の教学 ICT 化を積極的に推進するため、文科省遠隔授業設備補助事業申請を行った。その結果、貸出タブレット PC (40 台)、分散授業システム、360° 全天球カメラを用いた実験・実習授業支援システムを導入することができた。また、遠隔授業動画撮影システムを学長裁量経費で実現した。なお、学術情報館既存建物改修(ラーニングコモنز)は今年度完了しておらず、引き続き、実現に向けた取組を進めていく。

イ 教職課程支援について

教職課程は、再課程認定された課程の確実な履行を進めている。今後、課程のさらなる改善と充実を図っていく。

ICT の知識・スキルを備えた教師教育に向けた電子黒板やタブレットを準備しその活用を始めている。コロナ禍で小中高の GIGA スクール化は加速しており、今後も積極的に取り組んでいく。

教員免許状更新講習については、実施に向けた準備を行ってきたものの、コロナ禍によって実現できていない。文部科学省の方針も踏まえつつ、新教育課程に対応した各種講習の実施を検討していく。

教育委員会や市内各学校との連携による学習支援事業は引き続き実施し、学生の現場体験活動を通して、教職に対する意識と資質の向上を図ることができた。

ウ 学生生活支援について

(ア) 自主活動・課外活動の支援

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学友会春季総会、新入生歓迎会は中止となった。しかし、キャンパス内の自主活動及び課外活動や学生行事は、学生に寄り添い支えるために綿密に検討し、オンラインでサークル交流会(入学後のサークル紹介)や学友会秋季総会を開催した。また、嚴重な感染予防対策を講じて、大学祭(学内限定)、学友会激励会、卒業パーティー(卒業生予約者限定)を開催した。学生部主催企画「諸富祥彦先生オンライン講演会」も開催し、学生支援に努めた。

(イ) 経済的支援の充実

今年度は、「高等教育の修学支援新制度並びに私立高等学校授業料の実質無償化」の導入初年度により、学内奨学金の運用が変更された。コロナ禍を始めとする経済的な理由によって修学困難な学生の支援を、給付奨学金及び授業料減免制度の実施によって強化することを目標にした。今年度は学内各種給付奨学金への申請に対しては約 80%の採択率で計 47 名を対象に採択した。また、事前予約型宮城学院奨学会奨学金は 5 名全員採択で実施した。今年度は、緊急経済支援として新型コロナウイルス感染症緊急修学支援給付金を導入し 20 名の学生を対象に 40 万円又は 20 万円の給付措置を講じたほか、昨年度の台風 19 号被災学生 7 名を対象に授業料減免措置を講じた。また、大学 HP に奨学金のバナーを設置し、ユニパでの周知や学内掲示の数を増やし、学生への周知に努めた。

(ウ) 学生相談・特別支援の充実

今年度は、従来の相談に加え、新型コロナウイルスに伴う心理的变化に対応するため、いち早く Zoom・電話での相談を導入した。また、新型コロナウイルスの影響により、例年とは異なる不安・困り感が見られたことや、普段であれば来室しないような学生層の利用も見られた。特別支援室では、大学生としての経験のない 1 年生に対し、履修登録、オンライン授業についての情報収集、受講方法、課題提出方法について連日にわたって支援を行った。これらの対

策から、結果的に多様化・複雑化する相談ニーズに速やかに対応することができた。

一方で、学生相談・特別支援センターの移転を予定しており、場所が変わるという変化については、対応を周知徹底する。

(エ) 学生寮の管理運営及び寮生活のサポート

コロナ禍の中、安心して過ごせる学生寮であるための予防策の徹底並びに必要な設備の整備等に努めた。また、通常の行事が行えない中、新入寮生との懇談会を設けるなど安心して過ごせる環境作りを心掛けた。後期の対面授業再開に伴い、寮生の活動範囲も広がり更なる予防策の徹底も必要となったため、館内放送や便りの配布による注意喚起も行った。

(オ) 学生のためのアメニティの向上

ロッカー室改修計画実行のため、1月末までに3学科を除く学科の学生から鍵を回収し、2月末までに清掃を行った。今後のロッカー室となるB231、K104のロッカー配置や、学生の着替えスペースとなる体育館測定室についても、施設課・業者と協議を進めている。ブリックハウス（講義館2階ロビーに設置している喫茶スペース）、リエゾン・アクション・センター（以下、「MG-LAC」という）周辺の椅子の座面のリニューアルも、一部対面授業が開始した7月に合わせて完了した。

エ キャリア（就職）支援について

(ア) キャリア教育と就職支援の体系化

初年次から卒業年次まで、学生が受講するキャリア関連科目の存在は、本学の教育的魅力の一つと位置付けられている。特に全学必修科目の「キャリアデザイン」は、多様化する女性の働き方やキャリア形成について学び、社会の様々な分野で活躍する女性たちをゲストに招く「キャリアアップセミナー」を含め、就職だけではないキャリア教育を企図した特色ある科目となっている。月曜5校時に設定されたキャリア教育枠では「キャリアデザイン」科目を、各学科とキャリア支援課が連携・運営し、就職ガイダンス等の実施を通して、キャリア科目と就職ガイダンスの有機的体系化を進めている。一方、2020年度は、新型コロナウイルスの影響で、大規模クラスとなる「キャリアデザイン」の全ての授業を、遠隔で実施せざるを得なかった。各回、数百人にのぼる受講者全員が同時に視聴できるよう、状況に応じてZoomやMicrosoft Teamsを活用して動画配信を行った。対面・遠隔授業形態が併走した後期は、前期より延期していた「キャリアアップセミナー」を後期に全て行ったほか、授業の動画配信に加え、学内受講生に配慮し、教室での視聴も実施した。

今後、教務センターとの一層の連携を図るとともに、本学学生の主体的学習の手引となるテキストを導入し、コロナ禍を乗り越える女子大学発のキャリア支援の展開に努めていく。

(イ) 多様な進路選択とニーズに対応

学生、卒業生、大学院修了生に向けた、キャリア情報・教育の提供の検討については、学び続ける意欲のある者に対し、「資格を取って一生の仕事にしよう（6種の士業）」などの講座をオンデマンド配信で行った。高い視聴回数から学生の関心は高いものと確認することができた。

また、2020年度は一般教育科目「キャリア形成論」（4年次）の参加を企図して「ライフ・キャリアを語る会」を設定し、卒業間近の4年生とOG、担当教員による小規模なワークショップを行った。多様な進路選択を行った学生たち、OGが将来への期待と不安を率直に話し合い、人生の先輩からのアドバイスを含め、相互に学ぶ本学発のリカレント教育の好例となった。

(ウ) SPI・筆記試験対策

「SPI対策実践講座」は低学年も含めた81名の参加があり、3日間実施した。参加学生のうち89.7%に成績の向上が見られ、成果の可視化につながった。SPI・筆記試験の対策では、個々の強化すべき点を精査し、学生の主体的学習が継続的に行えるような指導をしていただ

いた。

(エ) 低学年からの就職支援及び資格取得のための支援

低学年も参加できる就職支援として、外部団体や自治体の協力を得て、以下の講座を開催した。「SPI（非言語）対策実践講座」（3日間。参加人数81名）、「資格を取って一生の仕事にしよう（士業）」（視聴回数215回）、「宮城県主催インターンシップ説明会」（参加人数53名）、「公務員ガイダンス」（参加人数68名）を実施した。学生の利便性に沿った開催方法を検討し、オンライン開催（Microsoft TeamsやMicrosoft Stream、Zoom使用）のほか、安全に配慮した上で一部対面を取り入れ、学生それぞれの状況と利便性を考慮して行った。低学年の意欲的な参加も見受けられた。

また、本学のキャリア支援の具体例として、身近なロールモデルの提示がある。内定を得た4年生（ジュニアアドバイザー）から就職活動の体験談を聞く会「ジュニアアドバイザーに聞こう」は、4年生11名に協力を得て、Zoomで開催することができた。低学年の学生が多く参加し、学年を超えた新しい交流の始まりが見受けられた。

(オ) 就職活動が難しい学生への支援及び就職を希望しない学生への支援

この支援は、すでにコロナ以前から、主に就職支援委員会を中心に、就職活動に直面することが困難な学生への支援や就職を希望しない学生への進路支援などに、学内の関連部署（特別支援、地域連携等）と連携しながら取り組んできたもので、「資格を取って一生の仕事にしよう」の実施、士業資格のガイダンス、加えて、卒業生向けの就職情報提供の支援を行っている。

一方、今年度はコロナの影響で学生全般の就職活動について、様々な支障が出た。2020年3月の学内企業研究会の中止、学生の希望職種として人気の高いアパレル、航空・旅行、サービス系業界が一斉に採用活動を縮小ないし取りやめなど、学生の就職活動、とりわけ女性の就職、就労への著しい影響があった。

本学では、通常では就職活動期の学生全体に向けて、キャリア支援担当職員による「顔の見える」手厚い就職個別相談を行っているが（年間数千件）、2020年度前期は学生の入構禁止のなかでの対応となった。そこで「誰一人取り残さないキャリア支援」の視点から、2020年春の時点で4年次全員への電話連絡、オンライン面談の速やかな実施を行った。堅調であった本学の高い就職率の維持は難しい状況にあるものの、一定の就職率を保持している。

今後の課題としては資格取得、多様なキャリアパスの周知がある。女性のキャリアをトータルに支援するとの観点から、With コロナ時代の幅広い企業・業種開拓、学外機関との連携強化による情報収集を継続していく。

(5) 学生募集

2020年度は、年間を通じて新型コロナウイルス感染拡大の影響を色濃く受ける1年となった。

具体的には、文部科学省からの通知により、総合型選抜の日程を2週間程度後ろ倒しにしたことや各入試を実施するに当たっての感染対策の徹底や受験生・関係教職員に対する健康観察の記録を依頼したこと、一般選抜に振替受験や追試験を設定したことなど、これまでにない対応を求められる場面が多くあった。

ほかにも、県内の高校が6月から授業を開始したことに伴い、例年5月中から実施する高校訪問のスケジュールが後ろ倒しとなったこと、オープンキャンパスのいくつかをオンライン開催としたこと、来場型で実施する場合も規模を縮小せざるを得なかったこと、あるいは業者主催の入試相談会の中止が相次ぐなど、受験生と接触する機会が大幅に少なくなった。

その他、大学入試センター試験から名称や内容が一部変更となり初めての実施となった大学入学共通テストにおいては、トラブルも無く実施することができたものの、一般選抜A日程では、

当日の降雪による公共交通機関の乱れがあり、本学試験場では最大 45 分間試験時間を繰り下げる対応を行った。

また、多様な学生の受入れを目的として、今年度から社会人入試における年齢の出願要件を満 25 歳から満 22 歳に引き下げたものの、今年度から実施する予定であった特別入試（スポーツ）については、入試を実施する前提となっていた環境の変化に伴い、制度設計の見直しなど検討を重ねたが十分な見通しを得ることができないことから実施を見送ることとした。

前述のように、今年度は先の見通しの立たない要素が多かったことに加え、昨年度までの受験生の安定志向が大きく変化した影響などもあり、結果的に 2021 年度の入学者数は入学定員を下回る 749 名となった。

（6）社会連携（MG-LAC 活動を含む）

社会連携センターは設置から 7 年目を迎え、連携先との継続事業が根付いてきた。様々な外部団体から新規事業の案件が持ち込まれることも増え、活動の裾野が広がっている。2020 年度より連携事業を行う際は「社会連携事業届出書」を提出する仕組みを創設し、自治体や企業等の外部団体との活動に関する記録を社会連携センターで管理するなど連携事業の安定化や発展につなげられる仕組みを構築した。

学生の自主活動やボランティア活動をサポートするリエゾン・アクション・センター（MG-LAC）では、コロナ禍においても学生の自主性や主体性を尊重したプロジェクト活動が展開できるように独自にガイドラインを定め、安全に活動ができるような仕組みを構築した。

（7）国際交流

コロナ禍の影響で、当初計画していた海外提携校との関係強化やきめ細かな留学サポートなどの実施は行うことができなかった。そのような中でも、学内 TOEFL を実施することに加え、海外在住の卒業生とオンラインによる交流会を試行的に行うなど、留学を希望する学生が、少しでもモチベーションを維持できるような取組を行った。

（8）生涯学習

コロナ禍の影響で、従来のような講座はもちろん、「みやぎ県民大学」など一般の方を対象とした講座の開講や新規プログラムの開発を行うことはできなかった。そのような中でも、後期からは近隣にある商業施設「ランチ仙台」の協力で、当該施設内にある地域交流スペース「まちづくりスポット仙台」において、週 1 回のペースでミニ講座を開講することができた。コロナ禍によって困難を強いられている現在の状況を従来までの生涯学習講座の運営方法を見直す良い機会と捉え、本学の知を地域に広く還元する体制作りを目指していく。

（9）大学院

ア 人文科学研究科

大学基準協会からの指摘事項に留意しながら、人文学会研究発表大会と連動させた、研究科固有の FD 研修会を行った。

また、研究科の大学院生全員を対象とした研究倫理研修会を実施した。

広報に関しては、従来の大学院入試説明会のほかに、学内の学部生に向けてユニパを用いた研究科の案内文書を配信するとともに、キャリア支援課及び教職センターに研究科への進路指導を依頼した。

このほか、コロナ禍での院生への学修支援としてこれまで導入しているティーチングアシスタント制度をより充実させ、ティーチングアシスタントを担当する院生には、実施前の研修会

と実施後の報告会を課している。

※「ティーチングアシスタント制度」＝本学の大学院生の教育研究に係る研修および学部学生に対する教員の指導補助員として採用し、学部の授業内容の充実をはかることや学修支援の一環として学費補助に寄与することを目的とする

イ 健康栄養学研究科

大学院生の研究指導及び大学院1年次院生への基礎分野の指導強化のため、次年度に向け修士論文指導教員1名を増員することができた。FD活動では、年2回、本研究科担当教員と院生及び学部生を対象とした固有の研修会を継続して実施した。

2020年度は3名が大学院に入学し、在籍者総数は8名となり、適正な在籍者数を維持することができた。さらなる大学院への入学者確保に向けた取組として、学部学生への「大学院での学び」を紹介する大学院説明会を研究科合同で実施した。

「臨床栄養分野の管理栄養士のための高度専門力育成プログラム」（文部科学省認定「職業実践力育成プログラム（BP）」）では、厚生労働省の教育訓練給付金の専門実践教育訓練として指定を受け、現職者が学びの機会を支援する環境を整えることができた。

(10) 大学後援会活動及び保護者等との連携

大学後援会の活動については、新型コロナウイルスの影響により、各種行事を中止・変更せざるを得なかった。入学式終了後に行う予定であった「大学後援会入会式」は中止、5月30日に開催予定であった「大学後援会総会」も中止し、総会の議案については書面による議決とした。

例年、8月～9月にかけて開催している宮城県以外の東北5県を会場にした「地区後援会」についても、新型コロナの収束の見通しが立たず、開催を断念した。

一方で、在学生の保護者が、本学における教育方針や日々の教育諸活動、学生が過ごしている学内の情報を知る機会として発行している「宮城学院女子大学後援会会報」については、後援会総会や地区後援会での情報提供の機会が減ったことを補うことを目的に、例年は年1回発行のところを年2回の発行とした。

また、大学が行う新型コロナ対策への助成として、自動検温システム（KAOIRO）を購入し、学生の入構管理や式典、行事における感染症対策への支援を行った。

その他、2019～2020年度の2ヶ年計画で実施していたブリックハウスの椅子の座面張替え等の環境整備を完了した。

3. 宮城学院中学校高等学校に関する事項

(1) 教育計画全般

ア 中学校・高等学校では、建学の精神を堅持し、スクールモットーである「神を畏れ、隣人を愛する」の下に、女子教育の特色と希少性を存分に生かしつつ、時代のニーズに的確に応える教育を実践してきた。本校は、本年度も、神の前に謙虚に真理を追究し、世界の人々と共に歩み、人類の福祉と平和のために貢献することができる人間性豊かな女性を育む教育を実践した。

イ 上記教育目標を達成するために、①英語教育、②音楽教育、③グローバル・スタディーズ（グローバル教育）を教育の三本柱としている。この三本柱は、伝統的に本校が教科教育、生徒会活動、学校行事などを通して大切にしてきたものであり、特にグローバル・スタディーズにおいてはSDGsと関連した取組を行った。SDGs教育は今後も探究課題とし、「未来の地球人を育成する」ことを目指して継続する。

ウ 学校教育の基本である、教員の授業力、生徒指導力の向上に努めてきた。教員研修については新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から多くの研修会が中止となったが、リモートによる研修会に多くの教員が参加した。また、年度当初は臨時休校の措置がとられたため、Google

Meet を用いて遠隔授業を実施した。実施に際して全ての教員で遠隔授業を行うためのスキル習得に向けた勉強会などを行い、対面授業再開後も ICT を活用した教育を展開している。また、これまで行ってきた授業アンケートの実施、教員の授業改善シートの提出を行った。さらには、大学入試に対応したアクティブ・ラーニング研修と授業実践を積み重ね、生徒の思考力、判断力、表現力を培う教育力を着実に身に付け、日々刷新の努力を続けている。

(2) キリスト教教育活動

キリスト教教育の要である日々の礼拝を大切にしてきた。中高一貫教育の実質化のために、中高合同礼拝を本年度も継続した。ただし、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から放送によるものを主とした。宗教諸行事については延期や中止とせざるを得ないものがあつたが、形態や会場を変えて実施するなど、できることを見出すことで、これまでとは違った視点で展開して行くチャンスとなったことは大きな収穫であった。オンラインシステムの活用はその最たるものであり、クリスマス礼拝を事前録画・編集したものを配信した。

また、YWCA の取組として、特別養護老人ホームや保育所等の外部施設への訪問、街頭募金などは全て中止となった。さらに、毎夏東北・北海道地区のキリスト教学校が共同で行っている宿泊を伴うカンファレンスも中止となり、活動を断念した。そのような中、医療従事者の方々に手作りの防護服を届ける活動「防護服支援プロジェクト」に参加し、制作作業を行っている。併せて、従来献金をお送りしている諸団体に生徒手作りのカードにメッセージを添えてお送りすることができた。

さらに、河北新報社主催（宮城県・仙台市ほか後援）「今できることプロジェクト」に有志生徒と共に参加し、名取市閑上地区を訪れ震災について学び、その学びの成果を紙面にまとめるとともに、校内で報告会を開催した。

(3) 学習指導

ア 生徒自身の学力向上のため、自学自習の習慣を身に付けることを目的に、学年ごとに設定された家庭学習時間を達成できるよう指導してきた。スマートフォンやゲームに依存して家庭学習が困難になりつつある現状を打開するため、引き続き、放課後学習支援室（スタディモール）を充実させ、校長指導の下、教務部長、進路指導部長、選抜コース進路主事、特進コース進路主事、スタディモール担当教員が連携して、生徒に日々の予習・復習を着実にこなすことができるよう指導した。

イ 2019 年度から設置した選抜コース、特進コースについては、進学実績を目に見える形で向上させるために、スタディモールの「勉強班」を必修化し、学力を引き上げるよう指導した。高校 3 年生に対して、1～2 月に国公立大学二次試験対策講座を行い、入試に対する挑戦意識を持続できるようにした。本年度は難関私立大学の合格者が増えたが、今後は難関国立大学の合格者増を目指して指導していく。

ウ 2 教科型入試で中学校に入学した生徒には、オンライン英語プログラムを課し、読む、聴く、話す、書くという 4 技能についてバランスの取れた英語力を育てている。また、英語入試で入学した生徒（E-Junior）に対しては、「グレープ・シードプログラム(英語を母語としない国の児童生徒向けの英語教育プログラム)」を用いたネイティブ教員による英会話の授業とオンライン英語プログラムを週あたり 5 コマ展開するとともに、日本人専任教員による文法の授業を 3 コマ設け、4 技能をバランスよく身につける授業を展開してきた。

高等学校の英語に特化したカリキュラムを持つ GC（グローバル・コミュニケーション）専攻では将来英語を学ぶ又は英語を用いて働くために必要なレベルの高いコミュニケーション能力を育み、海外大学や英語に力を入れている日本の高等教育機関への接続を図る取組として、検定

指導や受験対策の研究を、外部団体の支援を受けながら実践してきた。全体の英語力が向上した結果、私大難関校への進学者が増えている。

エ 学習の基礎である読書力を身に付ける取組を、全教科にわたって行い、図書館の利用度を高めてきた。今後もビブリオ・バトル等を実施し、生徒の読書意欲を高める取組を継続する。

オ これまでどおり宮城学院女子大学の講義を高校生が受講し単位を取得する、高大連携を推進してきた。昨年度から高校3年生に加え高校2年生も参加することとなったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、後期からの参加となった。また、高校1年生は今後の実施に向けて検討を進めるとともに宮城学院女子大学の学部学科を生徒に理解させ進学者数を増やす努力をしていく。

カ 2020年度から大学入学共通テストが導入されたことにより本校でも各教科で研究を進め、授業内容に反映させてきた。中学校では、思考力や判断力を測る中学総合学力調査を導入して2年目となる。これらを通して生徒の思考力・表現力を高める教材に取り組んでいる。

キ 高校生のiPad学用品化が2年目となり、今年度は高校1,2年生の全ての授業で使用した。特に年度当初の臨時休校に伴いICT推進委員会を中心に、遠隔授業を実践するための研修会を行い、Google Meetを利用した双方向型少人数制(クラス単位)の遠隔授業を行ったことで、全教員がICT教育のスキルを身に付けることができた。また、対面授業再開後もGoogle Classroomを利用した教材配信やレポート提出、教材共有による協働学習に全教科で取り組んだ。2020年度大学入試の対応として、調査書の活動記録に関する記述欄について、全生徒にClassiを用いてオンライン上で特別活動を日々記録させる取組を行った。また、「中学校技術」の授業の一部と、「高等学校情報」の授業にプログラミング教育を取り入れ、本年度も引き続き教材の一部にレゴマインドストーム(ロボット教材)を使用し、生徒のプログラミングに対する意識向上につなげてきた。

(4) グローバル・スタディーズ

「総合的な学習の時間」(高等学校では「総合的な探究の時間」)で実施する「グローバル・スタディーズ」においては、「世界中の中の日本～SDGsの視点をふまえた学びとして～」をテーマに取り組んだ。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から昨年まで行ってきたポスター発表会は生徒が所有する学用品のiPadを利用し、オンラインによるスライドを用いたプレゼンテーションに変更し、各グループがその成果を發揮した。また、例年実施している卒業生や外部から講師を招いての講演会は中止せざるを得なかった。

(5) 海外研修・国際交流・国際寮

本校ではカナダのPCS(Pacific Christian School)、オーストラリア Westminster Schoolとの相互訪問を行っているが、新型コロナウイルス感染防止の観点から本年度は全て中止となった。このほか冬期ターム留学(3ヶ月留学)、夏期ターム留学も中止せざるを得なかった。また、予定していた留学生入試、編入試による留学生の受入れも11月までずれ込む結果となった。

次年度からは各国間で容易に渡航できるようになることを条件にAFSなどの留学団体からの留学生を受け入れていく。本校生の留学事業については世界の感染状況などを見ながら検討を進める。本校生の国際寮は今年度新たに3名の留学生を受け入れたが、理事会において国際寮を維持するに当たり財政、運営体制の課題から、閉寮に関する議論が重ねられた結果、国際教育を推進するという本校の方針を堅持しつつも、2022年度末の閉寮が決定した。これからも魅力ある国際交流活動を増やし、国際教育の推進に努めていく。

(6) 音楽教育

中高の音楽教育は、ミッションスクールとしての宗教音楽を大切にしている。毎年 12 月に行うクリスマス礼拝を学校最大行事と位置付け、学年ごとに、中学生はクリスマスキャロルを、高校生はメサイアを、そして最後にメサイアの中でも最も有名なハレルヤコーラスを全校生で讃美している。しかし今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から歌うことがかなわずクリスマス礼拝は録画によるビデオ配信となった。感染防止に努めながら、音楽班の讃美やハンドベルクワイア、オーケストラ班弦楽部門の演奏を録画し、ハレルヤコーラスのみ過年度の録音を用いた。これまでのようなクリスマス礼拝を守ることはできなかったが、YouTube にて配信したことにより、在校生はもちろん、保護者、同窓生、受験生に加え、これまで宮城学院中学校高等学校に関わってくださった多くの方々と共にイエス・キリストの誕生を祝い、豊かな時を持つことができた。次年度以降も歌うことがかなわないかもしれないが、このクリスマス礼拝は絶対に変えてはならないものとして、大切にしていく。

音楽系のクラブは、本校の学校直属団体として位置付けられている。(音楽班は聖歌隊として)音楽を通して豊かな心を養いつつ、またその活動に興味を持ち中学校入試、高等学校推薦入試で受験を希望する生徒が増えるよう、更なる努力を続けていく。

(7) 生徒会指導、生活指導

ア 生徒会指導

生徒会活動は生徒の自主性を重んじつつ、自立的な主体性を育成する教育活動の場として位置付けられている。目標を「キリスト教教育を柱に、自主自立の精神を育む教育」と定め、他者を尊重し、互いに信頼し高め合える仲間作りを行っている。運動会や文化祭、合唱コンクールなど、多くの行事を通して責任と義務を全うするリーダーシップを育ててきた。これらは自らの力で問題に取り組み、意見を述べ、人の考えにも耳を傾けることを重視するとともに、学習とは異なる形で、思考力、判断力、表現力を養う場として大切にしている。

その活動の一つとして、生徒たちの「自分たちの制服に誇りを持ち、全校生徒にきちんとした身だしなみで着用してもらいたい」という願いから、生徒会の中心メンバーが企画・運営する「制服セミナー」がある。今年度も執行部役員が自分たちの手で作り上げた制服セミナーを行うことができた。これまでどおりのことができない今だからこそ、できることは何かを考え、前向きに歩ませていきたい。

イ 生徒指導

これまで年 2 回学校生活アンケートを実施してきたが、今年度はオンラインで学校が始まったこともあり、Google Forms を用いて「こころとからだの健康アンケート」を実施した。特にオンライン授業、在宅環境下における生徒たちの心身の状態や、6 月からの対面授業開始による人間関係作りの遅れや進路面での不安を把握するための質問項目を設定し、通算 3 度行うことにより追跡調査を行った。問題がある場合には速やかに面談の機会を持ち、生徒が心身共に健やかに充実した学校生活を送れるように、各担任のみならず全教員で対応してきた。また、スマートフォン、インターネットを巡るトラブルを引き起こさないよう、利用マナーについて学ぶ講演会を生徒に対してオンラインで実施するとともに、ネットパトロールを通じて情報収集に努めてきた。

また、不登校生徒の一時的な学校の居場所として「教育支援室」を校内に設け、教育支援コーディネーターを配置することにより、不登校生徒の学校復帰を促進するよう努めてきた。不登校や発達に課題を持つ生徒、精神的にケアを必要とする生徒に対して、一人一人に最適な支援と対応ができるよう、中高校務委員会、生徒支援委員会で情報を共有し、学校、家庭、スクールカウンセラーが連携して取り組んでいる。

(8) 進路指導

既存の Ad (アドバンスト) コース、Cr (クリエイティブ) コースについては、引き続き進路指導部長と学年が連携し、進路指導を行った。また、新コースそれぞれの進学実績を向上させるために、「選抜コース進路主事」、「特進コース進路主事」、「総進コース進路主事」、「GC (グローバル・コミュニケーション) 専攻進路主事」を設置し、その指導に当たった。「選抜コース進路主事」は東北大学を中心とした難関国立大学への進路実績を向上させるために選抜教科担当者毎週会議を行い、進学指導の管制官の役割を務めた。「特進コース進路主事」は、中堅国公立大学、難関私大の進路実績を向上させるために、勉強班指導者、教科担当者と連携し、進学指導を指揮した。「総進コース進路主事」は宮城学院女子大学を中心とした指定校推薦入試や総合型選抜による合格者を増やすために有益な情報を、担任や生徒に提供した。「GC 専攻進路主事」は海外大学進学指導を推進し、TOEFL 対策を行った。

高等学校 3 年生に対して 1 月の終業後も講習会を実施し、受験生の国公立大学二次対策や私立大学受験支援を行った。

「東京研修」は新型コロナウイルス感染防止の観点から中止となったが「進路の日」などの進路行事を通して、生徒のモチベーションが高まる進学指導が行えるように改善を重ね、生徒一人一人の進学を応援してきた。

(9) 入試広報

入試広報部による、効果的な入試広報活動を展開してきた。ホームページの CMS 機能を十分活用するため、更新回数を増やした。

今年度は中高オープンキャンパスを始め、多くの広報行事を新型コロナウイルス感染防止の観点から中止とし、YouTube による録画配信の形で広報を行った。また、少人数を対象として土曜個別入試説明会の回数を増やし対応した。中学校を訪問し、宮城学院中学校高等学校への関心と理解を高めるよう努めてきた。また、英語入試受験生を増やすために、小学生を対象とした「チャレンジ・イングリッシュ」を本年度も実施した。しかし十分な広報活動を行うことができず受験生の増加にはつながらなかった。また、昨年度の「学業特待奨学制度」は選抜コースの入学者を増加させるには至らなかったが、今年度は推薦入試受験者が減ったことから、次年度以降の学業特待生制度について今後検討する必要がある。

(10) スクールバス

現スクールバス運行路線 (北東部方面、古川方面、愛子方面) を継続して運行してきたが、今後は、料金改定を念頭に置きながら、経費を可能な限り削減しつつ、運行経路、運行形態について検討していく。

(11) その他

地域の自治会、公立小・中学校との信頼関係を大切にするとともに、留学生との交流などを推進し、地域から愛される学校として、地域の人々との交流、協力関係を深める努力を続けた。

引き続き、新しいブランドイメージにつながるよう努力していく。

4. 宮城学院女子大学附属認定こども園「森のこども園」に関する事項

2020 年度はコロナ禍での保育をどのような形で行うかに終始した 1 年だった。入園式・始業式を感染予防に留意しながら開催したが、その直後、仙台市より自粛要請を受け、4 月～5 月の 2 か月、1 号認定※は完全自粛、2・3 号認定※は育児休業中の方は自粛、ほかは原則保育を行うように要請を受けた。保護者の中には自粛やリモートで仕事をされる方もいて自粛される方が増えた。大学中

高が休校のために北門からの出入りを無くして正門からのみとした。保護者の方の中には医療関係者も多く、その就労を支えることが園としての社会貢献でもあった。

一方で子どもたちの命と安全を第一に考え、日常の保育の中での衛生の担保と子どもたち、保育者の健康状態の把握にも努めた。自粛期間の最後の方では、自宅にいる子どもたちと保護者のストレスが社会問題化する中で、本園の持つ環境であれば、1号認定児の保育が可能であると考え、5月に「森で遊ぼう」と午前中1クラスだけ登園できる日を設定した。久しぶりに外に出ることができた子どもたちは、園庭や森を動き回り、野外炊飯場で朝のお集まりをして、木のテーブルの上でクラスの仲間たちと製作をして家に持ち帰るなど、楽しい時間を一緒に過ごすことができた。生き生きとした子どもたちの笑顔にこそ保育の原点があると思わせてくれた時間だった。5月末に実際の保育が開始になってからは、行事の見直しを行った。中止にするもの、延期や変更するものといった対応は一部保護者から不満の声が挙がったものの、結果的に「今まで一番いい！」と保護者から言っていた行事もあった。

※「1号認定」＝子ども・子育て支援法第19条第1項第1号に該当する教育標準時間認定児童

「2号認定」＝子ども・子育て支援法第19条第1項第2号に該当する満3歳以上の保育認定児童

「3号認定」＝子ども・子育て支援法第19条第1項第3号に該当する満3歳未満の保育認定

(1) 登降園システムのICT化の推進

今年度は登降園システムのICT化を進めることにしていたが、4月の話し合いが緊急事態宣言のため進まず、登園時の発熱管理のみシステムを利用した。こども園が以前から利用していたバスキャッチシステムを利用して出欠管理を行える様にして現在に至っている。また、アンケート機能を利用することにより、保護者にプリントを配って集計する手間を無くした。コイノニア（懇談会）も前期は中止して「てのりの」という無料の動画アプリを利用することにより、子どもたちの日常や遊びの姿、保護者に伝えたい保育の場面を説明しながら配信した。他大学との未満児（満3歳未満の子ども）の遊びの共同研究は中止になったが、ICT化による保育の配信の新たな姿を模索しながら行った。

(2) 礼拝

キリスト教主義のこども園として、聖句暗唱を入れたことにより、各保育室での礼拝の形を整えることができた。感染予防のために園全体で集まらないようにしたため、上のクラスの子どもたちから受ける影響が少なくなったが、その分、担任たちが礼拝の時間の持ち方をきちんとした形で行えるようになった。学院長先生から聖句についての解説を園だよりの中で毎月発信していただけたのも、より理解が進むきっかけとなった。

(3) 食育

食育は未満児も含め「食べるのが楽しくなる」活動への取組が多くなった。子どもたちは畑で収穫したものを、どのように料理して食べようかと考えるようになり、形だけの食育ではなく「食べるもの、食べること」を話題にできるようになった。畑で大根の種を蒔き、芽が出てから大きくなるまでを日々観察し、収穫し、みそ汁・サラダ・煮物にして、4歳児は切り干し大根とへそ大根を作った。それも春になってみそ汁にし、煮物にもした。稲を育てた5歳児は収穫した米が茶碗1杯分にしかならないことを知り、農家の方たちの仕事がいかに大変かを実感していた。

(4) 北欧のアウトドア教育

世界的なコロナ感染の広がりにより、こども園から保育者を派遣することはできず、講演をZoomで見る、あるいは大学の教授から北欧の保育の研修を受け自分たちの学びを深めた。ス

ウェーデンの教育からは「自分で考え、自分で判断し、自分で行動する」姿勢が、子ども時代から自然環境の中で自由に過ごすことで感性を育て、知的好奇心、身体的能力、集中力を養い、相互秩序の心を育むと学んだ。修了児の 3 学期の姿を見ていると正に本園の教育が浸透しているのが実感できた。

(5) 子育て支援

どんぐりクラブやにこにこ Day など、利用人数を 1 回 4 組までにした。内容は従来同様としたが、集団が小さくなったことで物足りなく思った方もいた。一方で人数が少ないからこそ打ち解けやすくなり、子育ての相談を伝えやすくなった方もいた。子育て講座も対面だけでなく Zoom も利用して行うようになり、外部の方の参加もあった。

(6) 児童クラブ

ここ 2 年は本園の修了児が持ち上がる形で利用する児童が増えており、森での遊びを経験した子どもたちで構成されている。こども園同様食育に関しては、児童の昼食やおやつを作って食べる時間もあり、楽しい時間となっている。今年度は桜丘小 20 名、他 6 校 9 名の利用だった。

以上、コロナ禍の 1 年は制限が多い中での保育ではあったが、子どもたちを育てる保育の中身が縮小したわけではない。修了式に至るまでの 5 歳児の成長は目を見張るものがあり、本園の保育が子どもたちの自主性が育つ保育であることに自信を持った 1 年でもあった。

5. 宮城学院女子大学附属音楽教室に関する事項

(1) 音楽教室の位置付けと近年の傾向について

現代社会の多様なニーズに沿えるよう、音楽教室は昨年度まで、継続的に制度改革やレッスン内容の刷新に取り組んできた。

新型コロナウイルスの感染拡大はこうした中で起きた。コロナ禍の間も教育活動を継続できるよう、音楽教室は本年度もレッスン内容の改定を積極的に行い、教室生の多様な要望にも応えられるようにした。以下、本年度の音楽教室の活動内容について概観する。

(2) 教育及び行事について

大学の新型コロナウイルス感染防止対策に合わせ、音楽教室は 2020 年 3 月から 4 月まで閉室となった。その後、大学の前期授業が全て遠隔（オンライン）授業となったことから、音楽教室も前期のうちは大学構内でのレッスンを行わないことを決め、5 月中旬より教師や教室生と調整しつつ、オンラインでの教育活動を開始した。生徒が低年齢であるため、オンラインでの授業実施は困難を極め、Wi-Fi 環境が整わない家庭も多かったことから、約 3 分の 1 の生徒が休室する事態となった。後期は大学音楽科と同様、音楽教室も全授業の 3 分の 1 を対面レッスンの形で行うことができた。

対面レッスンの際は、検温、体調報告、手指消毒、手袋（教室生の手に触れる場合）、フェイスシールド着用（教室生にも配布）、マスク着用、パーテーションの使用など、感染防止対策の徹底を図った。

「密」を避けるため、弦楽アンサンブルの授業は閉講とした。

コロナ禍のため、本年度の教室主催行事は全て中止となった。例年行っていたショッピングモール Tapio のコンサートも、今回は実施を断念せざるを得なかった。

(3) 広報について

前期はコロナ禍が始まったばかりだったこともあり、広報活動が全く行えなかった。新入室生は 1

名にとどまった。そこで、本年度の後期にいくつかの制度改革を行い、2021年度に向けて、オンラインレッスンを開講することを決めた。これにより、宮城県内だけでなく遠方からもレッスンが受講できるようになった。来年度に向けて案内やチラシなどを東北六県の楽器店にも送付するなど、教室生の販路を広げる広報を積極的に行った。その一方、従来通りの広報活動も引き続き行った。

(4) その他

本年度は新たに3名が音楽教室の教師陣に加わった。今後しばらくの間、教師の定年退職が続くことになるが、若い世代が音楽教室に新たな活力を与え、教育活動の充実に貢献することを期待している。

6. キリスト教センターに関する事項

キリスト教センターでは、キリスト教センター及び大学宗教センターの事業を以下のとおり実施した。

- (1) 全学院の年度聖句「受けるよりは与える方が幸いである」(使徒言行録第20章35節)の学内掲示及び刊行物への掲載を行った。
- (2) 全学院教職員礼拝(原則毎月第3水曜日16:30~17:00)の定期礼拝(5/27、6/24、7/22、10/21、11/25、2/17)のほか、特別礼拝として、新年礼拝(1/4)、東日本大震災記念礼拝(3/11)を行った。
- (3) クリスマス事業として予定されていた「クリスマス・チャペルコンサート」「クリスマスマーケット」は中止になったが、例年開催される「公開クリスマス礼拝」を「全学院クリスマス礼拝」(12/18)として本学院内の出席者に限定し行った。そのほか、クリスマス・キャンパス装飾(11/9~1/6)、クリスマス・イルミネーション点灯式(11/27)、宮城学院クリスマスカードの製作、大学宗教センターと併せてクリスマス献金(11/16~12/21)も実施した。
- (4) キリスト教講座は前期、後期ともにコロナウイルスの感染予防のため、開催しなかった。
- (5) ハートフルボランティア・サポート事業として、団体の募集、審査を行い、大学6グループ、中高2グループに助成金を交付し、ボランティア活動を支援した。また、活動報告会は開催せず、報告書を刊行した。
- (6) 学院内外の説教担当者が一堂に会する礼拝説教者懇談会を例年3月に開催予定であったが、コロナウイルスの感染予防のため中止した。
- (7) 刊行物として、宮城学院教職員礼拝説教集『GLORY TO GOD』(77号、78号、79号)、『礼拝ガイドブック2021』、『チャペルガイド2021』、『ハートフルボランティア報告書2020』を作成し、教職員や関係機関に寄贈・送付した。
- (8) 学生(教職員)の定期礼拝(授業開講期の月・水・金曜日12:10~12:30)を18回(10/14~1/8)実施、そのほか動画配信による礼拝も守った。特別礼拝として動画配信にてクリスマス礼拝(12/14)を行った。なお、3月17日に開催した卒業礼拝は、説教原稿を『あかり』(大学礼拝説教・特別行事講演収録集)にも掲載した。
- (9) 特別行事であるキリスト教教育特別集会は感染予防のため実施しなかったが、講演原稿を『あかり』に掲載した。ガイダンスとして、音楽科ピアノ履修の4年生を対象とした礼拝奏楽者ガイダンス(10/29)を実施し、新入生対象のキリスト教センター所属3団体ガイダンスは実施しなかった。
- (10) 大学礼拝説教・特別行事講演の収録集『あかり』を作成し、全学生・教職員に配付、また、関係機関に寄贈・送付した。
- (11) 大学YWCAは、オンラインでの聖書研究会、大学祭にて「聖書の言葉—グラフィックによる展示」(10/20)、大学クリスマス礼拝(動画配信)でのキャンドルサービス奉仕(12/14)、絵本の展示(大学宗教センターと共催)を実施した。バザー、切手回収、課外活動は中止とした。
- (12) 大学ハンドベルクワイアは、ハンドベルフェスティバル、宮城県ハンドベルコンサート、大学礼

- 拝等における賛美演奏奉仕、ボランティア訪問を中止した。感染防止に配慮して学内活動を行った。
- (13) 大学聖歌隊は、大学礼拝における教会暦賛美奉仕、定期演奏会、ミニコンサートを中止した。オンライン等、感染防止に配慮して学内活動を行った。

7. 資料室に関する事項

(1) 資料整理・調査

資料の整理として、資料室倉庫（C104）のキャビネットに収蔵されているランカスター神学校内にある福音・改革派歴史協会（ERHS）から蒐集した資料を確認し、キャビネットに見出しを作った。

調査として、資料室倉庫内にあった「現在在校生徒中基督教信者名簿：明治 39 年」を翻刻し、資料室年報で発表することができた。また、中高倉庫より発見された「学籍簿：昭和 16 年～昭和 19 年」を一部データ入力した（継続中）。

(2) レファレンス

レファレンスは、26 件となった。学外からはオックスフォード大学、東北学院大学等、学内では大学教員、中高教諭、職員からの問合せがあり、調査回答した。また、資料公開、紹介、研究のための準備資料を整える役割を担い、特に大学の授業科目である特殊研究（宮城学院女子大学の歴史）の最終回を資料室で担当し、オンライン授業に参加した。

(3) 講話依頼

創立記念行事の一つとして、中学 2 年生に「宮城学院の歴史」について講話を行った。

(4) 展示会

8 月 12 日～8 月 31 日に Kurax（クラックス）ビルで開催された「宮城学院戦災復興展—レンガ校舎の物語—」において、資料提供、展示作業を行った。

(5) 出版物等

『資料室年報 第 26 号』刊行
Glory to God vol.164 寄稿
パルティール vol. 30、31 寄稿

(6) その他

1999 年にカンサス大学から寄贈された、いわゆる「ハンセン資料」のデジタル化を進め、マイクロフィルム 60 巻のうち No.43 をデータ化した。

Ⅲ. 財務の概要

第4次中期財政計画の最終年度となった2020年度は、学生生徒園児総数目標3,952名に対し、実績3,963名となり目標を達成した。

教育活動収支はまさしく本業である学校本来の教育研究活動によるもので、その教育活動収支差額は基本的にはプラスとなるべきである。2020年度法人全体としては406,001千円とプラスになっている。また、教育活動外収支差額は99,598千円、経常収支差額は505,599千円となっている。以下、本年度決算の概要について報告する。

1. 事業活動収支計算書

当該会計年度の収支を経常的な収支と特別な収支(臨時的収支)に区分し、経常的な収支については、本業である教育活動収支と、財務活動を中心とする教育活動外収支に分けて、内容を明らかにするとともに、当該会計年度の基本金組入額を控除して事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにすることを目的としている。

(1) 教育活動収支

教育活動収入計は、昨年比332,428千円増の5,146,323千円となった。教育活動支出計は、昨年比79,158千円増の4,740,322千円となった。教育活動支出の主なものとして、人件費は昨年比77,334千円増の2,881,483千円、教育研究経費は昨年比16,337千円の増の1,539,914千円、管理経費は昨年比14,630千円減の315,004千円となった。

教育活動収入計から教育活動支出を差し引いた教育活動収支差額は、昨年比253,269千円増の406,001千円となった。

(2) 教育活動外収支

教育活動外収入計は、全て受取利息・配当金で昨年比137千円増の100,131千円となっている。教育活動外支出計は全て借入金等利息で533千円である。

以上により、教育活動外収支差額は、昨年比289千円増の99,598千円となっている。

(3) 特別収支

特別収入計は、昨年比5,765千円増の18,067千円となった。これは、その他の特別収入の内、施設設備補助金として大学の建物其他災害復旧補助金と中高ICT関連の教育設備整備費補助金等が採択となったことによる9,436千円である。

特別支出計は、98,182千円となった。これは、車両及び図書除却による資産処分差額10,499千円、退職給与引当金特別繰入額86,000千円が主なものである。

以上、特別収入計から特別支出計を差し引いた特別収支差額は△80,114千円となっている。

(4) 基本金

基本金は全体で221,071千円を組入れた。第1号基本金は、主に固定資産取得等及び除却によるもので159,621千円を組入れた。第2号基本金は、大学研究室冷房設備設置資金50,000千円を組入れた。第3号基本金は、奨学基金10,000千円、教育基金1,450千円を組入れた。

(5) 当年度収支差額

当年度収支差額は204,413千円となり、翌年度繰越収支差額は△1,510,104千円となっている。

2. 資金収支計算書

当該会計年度に行う諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金(現金及びいつでも引き出すことができる預貯金をいう。)の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的としている。

(1) 2020年度の資金収入は、前年度繰越支払資金1,700,248千円を含めた資金収入全体が7,412,449

- 千円となり、前年度と比べて 301,937 千円増となった。資金収入から支出合計 5,565,313 千円を控除した翌年度繰越支払資金は、1,847,136 千円となり、前年度と比較し 146,887 千円の増となった。
- (2) 収入の部では、学生生徒等納付金収入、手数料収入、寄付金収入は事業活動収支計算書の収入と同じである。新入生数に関する納付金等の前受金収入は、昨年比 105,320 千円減の 673,918 千円となった。その他の収入には、各引当特定資産からの取崩収入が含まれている。
- (3) 支出の部では、人件費支出には退職金支出 251,230 千円が含まれている。借入金等返済支出は、さくら寮の建設資金借入返済を含め 132,840 千円となっている。施設関係支出は 127,877 千円で、前年度と比べ 18,143 千円増となった。設備関係支出は前年度比 73,636 千円減の 63,644 千円となった。資産運用支出は、減価償却引当資産に減価償却額の他に 30,960 千円を「学科設置等準備資金引当特定資産」として繰入れた。

3. 貸借対照表

貸借対照表は、資産の部、負債の部、純資産の部で構成され、当該年度末の財政状態を表すことを目的としている。

- (1) 資産の部は、合計 24,398,049 千円となり、前年度末 24,096,890 千円から 301,159 千円増となった。有形固定資産は前年度末 11,371,642 千円から 269,228 千円減の 11,102,414 千円、特定資産は前年度末 10,289,687 千円から 398,516 千円増の 10,688,203 千円、その他の固定資産は前年度末 544,644 千円から 46,451 千円減の 498,193 千円となった。なお、流動資産は前年度末 1,890,916 千円から 213,323 千円増の 2,109,239 千円となっている。
- (2) 負債の部は、固定負債の長期借入金が 787,160 千円、流動負債の短期借入金が 132,840 千円等により負債の部合計は、前年度末 3,339,888 千円より 124,325 千円減の 3,215,563 千円となった。
- (3) 純資産の部の基本金は、全体で 22,692,589 千円となり、前年度末比で第 1 号基本金は 159,621 千円増、第 2 号基本金は 50,000 千円増、第 3 号基本金は 11,450 千円の増である。繰越収支差額の翌年度繰越収支差額は、△1,510,104 千円となった。
- (4) 資産の部合計 24,398,049 千円から負債の部合計 3,215,563 千円を差し引いた純資産の部合計は 21,182,486 千円となり、純資産構成比率(旧会計基準：自己資金構成比率)は前年度より上昇し 86.8%となった。また、運用資産の蓄積度を示す内部留保資産比率は、38.2%(前年度 35.9%)となった。なお、新学校法人会計基準で新設された積立率(運用資産/要積立額)は、学校法人の将来の確定的債務や奨学金の原資となる基金について、どの程度保有資産の裏付けがあるかを示す比率であるが、89.4%となっている。

過去5年間の推移及び構成比率

1. 事業活動収支計算書関係

(1) 事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位 千円)

科目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3,530,394	3,587,878	3,657,427	3,885,319	3,916,804
	手数料	56,581	57,155	59,370	60,360	52,143
	寄付金	54,101	66,551	40,740	45,324	71,621
	経常費等補助金	631,572	644,925	728,048	675,760	896,506
	付随事業収入	1,371	8,013	10,075	15,678	13,282
	雑収入	181,107	155,523	228,667	131,453	195,967
	教育活動収入計	4,455,126	4,520,045	4,724,327	4,813,894	5,146,323
	事業活動支出の部					
	人件費	2,932,058	2,971,147	2,961,120	2,804,149	2,881,484
	教育研究経費	1,238,582	1,320,784	1,335,919	1,523,577	1,539,914
	管理経費	304,931	288,162	270,675	329,636	315,005
	徴収不能額等	2,949	585	715	3,802	3,920
	教育活動支出計	4,478,520	4,580,678	4,568,429	4,661,164	4,740,323
教育活動収支差額	△ 23,394	△ 60,633	155,897	152,731	406,001	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	123,520	112,217	107,306	99,995	100,132
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	123,520	112,217	107,306	99,995	100,132
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	1,914	1,272	761	686	534
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	1,914	1,272	761	686	534
教育活動外収支差額	121,606	110,945	106,545	99,309	99,598	
経常収支差額	98,212	50,312	262,442	252,040	505,599	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	10	0
	その他の特別収入	157,147	9,424	18,532	12,303	18,068
	特別収入計	157,147	9,424	18,532	12,313	18,068
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	8,226	8,969	7,461	10,300	10,499
	その他の特別支出	86,040	86,499	86,153	86,197	87,683
	特別支出計	94,266	95,468	93,614	96,497	98,182
特別収支差額	62,881	△ 86,044	△ 75,082	△ 84,184	△ 80,115	
基本金組入前当年度収支差額	161,093	△ 35,732	187,360	167,856	425,484	
基本金組入額合計	△ 225,500	△ 272,420	△ 245,209	△ 172,315	△ 221,071	

当年度収支差額	△ 64,408	△ 308,151	△ 57,849	△ 4,460	204,413
前年度繰越収支差額	△ 1,330,649	△ 1,344,057	△ 1,652,208	△ 1,710,057	△1,714,517
基本金取崩額	51,000	0	0	0	0
翌年度繰越収支差額	△ 1,344,057	△ 1,652,208	△ 1,710,057	△1,714,517	△1,510,104

(参考)

事業活動収入計	4,735,793	4,641,686	4,850,164	4,926,202	5,264,523
事業活動支出計	4,574,700	4,677,417	4,662,804	4,758,348	4,839,039

(2) 財務比率の経年比較

	比率	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
1	人件費比率	64.0%	64.1%	61.3%	57.1%	54.9%
2	人件費依存率	83.1%	82.8%	81.0%	72.2%	73.6%
3	教育研究経費比率	27.1%	28.5%	27.6%	31.0%	29.4%
4	管理経費比率	6.7%	6.2%	5.6%	6.7%	6.0%
5	借入金等利息比率	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6	事業活動収支差額比率	3.4%	-0.8%	3.9%	3.4%	8.1%
7	基本金組入後収支比率	101.4%	107.1%	101.3%	100.1%	95.9%
8	学生生徒等納付金比率	77.1%	77.5%	75.7%	79.1%	74.7%
9	寄付金比率	1.3%	1.6%	1.0%	1.0%	1.5%
10	経常寄付金比率	1.2%	1.4%	0.8%	0.9%	1.4%
11	補助金比率	16.5%	13.9%	15.3%	13.8%	17.2%
12	経常補助金比率	13.8%	13.9%	15.1%	13.8%	17.1%
13	基本金組入率	4.8%	5.9%	5.1%	3.5%	4.2%
14	減価償却額比率	9.1%	9.1%	9.0%	9.0%	8.8%
15	経常収支差額比率	2.1%	1.1%	5.4%	5.1%	9.6%

2. 資金収支計算書関係

(1) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位 千円)

収入の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
学生生徒等納付金収入	3,530,394	3,587,878	3,657,427	3,885,319	3,916,804
手数料収入	56,581	57,155	59,370	60,360	51,912
寄付金収入	49,978	64,436	40,572	42,698	68,228
補助金収入	782,863	644,925	740,467	682,047	905,942
資産売却収入	0	0	0	127	0
付随事業・収益事業収入	31,297	24,528	25,422	48,072	45,946
受取利息・配当金収入	123,520	112,217	107,306	99,995	100,132
雑収入	181,447	153,737	227,844	130,084	198,906
借入金等収入	0	0	90,000	0	0
前受金収入	676,499	669,503	746,970	716,159	652,856
その他の収入	842,454	800,715	638,593	779,239	673,918
資金収入調整勘定	△ 989,705	△ 819,155	△ 914,034	△ 864,006	△ 902,443
前年度繰越支払資金	2,249,007	1,761,145	1,582,488	1,530,417	1,700,249
収入の部合計	7,534,335	7,057,084	7,002,425	7,110,512	7,412,450

支出の部	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
人件費支出	2,986,167	2,985,266	2,981,244	2,835,458	2,895,260
教育研究経費支出	857,557	926,055	945,289	1,130,957	1,145,687
管理経費支出	266,753	242,811	238,579	295,322	283,076
借入金等利息支出	1,914	1,272	761	686	534
借入金等返済支出	160,840	160,840	150,840	144,840	132,840
施設関係支出	394,470	34,309	195,008	90,359	127,878
設備関係支出	77,768	79,843	96,895	137,282	63,645
資産運用支出	858,917	869,275	807,778	677,115	799,885
その他の支出	275,599	283,134	255,634	319,083	326,119
資金支出調整勘定	△ 106,795	△ 108,209	△ 200,021	△ 220,840	△ 209,609
翌年度繰越支払資金	1,761,145	1,582,488	1,530,417	1,700,249	1,847,136
支出の部合計	7,534,335	7,057,084	7,002,425	7,110,512	7,412,450

(2) 活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

科目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	4,479,726	4,527,690	4,735,547	4,840,842	5,174,372
教育活動資金支出計	4,110,436	4,153,634	4,164,958	4,261,541	4,322,340
差引	369,290	374,056	570,588	579,301	852,032
調整勘定等	△ 66,280	161,720	△ 11,871	126,937	△ 106,098
教育活動資金収支差額	303,009	535,776	558,717	706,238	745,933
施設整備等活動による資金収支					

	施設整備等活動資金収入計	431,318	32,320	46,080	203,976	145,238
	施設整備等活動資金支出計	941,647	602,733	711,494	639,796	597,576
	差引	△ 510,330	△ 570,413	△ 665,414	△ 435,820	△ 452,339
	調整勘定等	△ 136,093	0	75,876	△ 13,840	△ 39,701
	施設整備等活動資金収支差額	△ 646,423	△ 570,413	△ 589,538	△ 449,660	△ 492,040
	小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	△ 343,413	△ 34,637	△ 30,821	256,578	253,894
その他の活動による資金収支						
	その他の活動資金収入計	584,802	575,917	662,638	442,991	530,086
	その他の活動資金支出計	729,251	719,937	683,888	529,738	637,092
	差引	△ 144,449	△ 144,020	△ 21,250	△ 86,747	△ 107,006
	調整勘定等	0	0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額	△ 144,449	△ 144,020	△ 21,250	△ 86,747	△ 107,006
	支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	△ 487,862	△ 178,657	△ 52,071	169,831	146,888
	前年度繰越支払資金	2,249,007	1,761,145	1,582,488	1,530,417	1,700,249
	翌年度繰越支払資金	1,761,145	1,582,488	1,530,417	1,700,249	1,847,136

（３）財務比率の経年比較

	比率	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
1	教育活動資金収支差額比率	-0.5%	-1.3%	3.3%	3.2%	7.9%

3. 貸借対照表関係

(1) 貸借対照表の状況と経年比較

(単位 千円)

科目	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
固定資産	21,677,457	21,888,433	22,169,614	22,205,974	22,288,810
流動資産	2,126,307	1,785,284	1,848,292	1,890,916	2,109,239
資産の部合計	23,803,763	23,673,717	24,017,906	24,096,890	24,398,050
固定負債	2,357,470	2,278,510	2,276,152	2,197,731	2,136,765
流動負債	1,008,775	993,420	1,152,607	1,142,157	1,078,798
負債の部合計	3,366,245	3,271,930	3,428,759	3,339,889	3,215,564
基本金	21,781,575	22,053,995	22,299,204	22,471,519	22,692,590
繰越収支差額	△ 1,344,057	△ 1,652,208	△ 1,710,057	△ 1,714,517	△ 1,510,104
純資産の部合計	20,437,518	20,401,787	20,589,147	20,757,002	21,182,486
負債及び純資産の部合計	23,803,763	23,673,717	24,017,906	24,096,890	24,398,050

(2) 財務比率の経年比較

	比率	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
1	固定資産構成比率	91.1%	92.5%	92.3%	92.2%	91.4%
2	有形固定資産構成比率	50.9%	49.7%	48.3%	47.2%	45.5%
3	特定資産構成比率	37.9%	40.4%	41.6%	42.7%	43.8%
4	流動資産構成比率	8.9%	7.5%	7.7%	7.8%	8.6%
5	固定負債構成比率	9.9%	9.6%	9.5%	9.1%	8.8%
6	流動負債構成比率	4.2%	4.2%	4.8%	4.7%	4.4%
7	内部留保資産比率	31.2%	33.2%	33.7%	35.9%	38.2%
8	運用資産余裕比率	205.3%	211.8%	220.4%	228.3%	238.8%
9	純資産構成比率	85.9%	86.2%	85.7%	86.1%	86.8%
10	繰越収支差額構成比率	-5.6%	-7.0%	-7.1%	-7.1%	-6.2%
11	固定比率	106.1%	107.3%	107.7%	107.0%	105.2%
12	固定長期適合率	95.1%	96.5%	97.0%	96.7%	95.6%
13	流動比率	210.8%	179.7%	160.4%	165.6%	195.5%
14	総負債比率	14.1%	13.8%	14.3%	13.9%	13.2%
15	負債比率	16.5%	16.0%	16.7%	16.1%	15.2%
16	前受金保有率	260.2%	236.1%	204.9%	237.4%	282.9%
17	退職給与引当特定資産 保有率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
18	基本金比率	105.8%	106.8%	106.7%	106.9%	110.1%
19	積立率	91.3%	87.6%	87.6%	88.3%	89.4%

4. その他

(1) 有価証券の状況

種類	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	6,493,266,000	6,694,011,900	200,745,900
時価のない有価証券	2		
有価証券合計	6,493,266,002		

(2) 借入金の状況

借入先	期末残高 (円)	利率	返済期限等
日本私立学校振興共済事業団	444,400,000	1.50%	2030年9月15日
七十七銀行長命ヶ丘支店	132,400,000	0.11%	2029年3月25日
仙台銀行桜ヶ丘支店	72,000,000	0.06%	2029年3月25日
三井住友信託銀行仙台支店	20,000,000	0.11%	2022年3月25日
三井住友信託銀行仙台支店	187,200,000	0.11%	2028年3月30日
三井住友信託銀行仙台支店	64,000,000	0.08%	2025年3月31日
合計額	920,000,000		

(3) 学校債の状況

学校債は発行していない。

(4) 収益事業の状況

収益事業は行っていない。

IV. 資料

1. 理事会、評議員会の開催状況

(1) 理事会の開催状況

開催年月日	議 題
2020（令和2）年 5月26日（火） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年度事業報告（案）について 2. 2019年度決算（案）について 3. 2019年度資産運用報告について 4. 寄附行為第28条第1項第4号評議員(学識経験者)の選任について 5. 名誉教授称号の授与について 6. 寄附行為の一部改正について 7. 大学学則改定について 8. 寄附行為第8条第1項第9号理事（評議員選出）の選任について
6月23日（火） （臨時）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義館外壁改修工事契約について 2. 宮城学院施設修繕準備調査報告書について（報告）
7月28日（火） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第4次中期財政計画の中間総括について 2. 高等学校における留学生等受け入れ施策について 3. 宮城学院施設修繕準備調査報告書について(報告)（継続）
8月11日（火） （臨時）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宮城学院女子大学学則の改定について 2. 第4次中期財政計画の中間総括について(継続) 3. 高等学校における留学生等受け入れ施策について(継続) 4. 宮城学院施設修繕準備調査報告書について(報告)（継続）
9月29日（火） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宮城学院高等学校学則改定について
11月24日（火） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理事会運営について 2. 2020年度補正予算(案)について 3. 2021年度予算編成方針案について 4. 学術情報館の建設場所について
2021（令和3）年 1月26日（火） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学術情報館について（継続） 2. 施設修繕準備調査について 3. 監事監査意見について
3月16日（火） （定期）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第5次中期計画（案）について 2. 2021年度事業計画（案）について 3. 第2号基本金「大学研究室冷房設備整備資金」の新規組入計画について 4. 第2号基本金「学術情報館建設資金」組入計画変更について 5. 第3号基本金「宮城学院奨学基金」組入計画変更について 6. 2021年度予算（案）について 7. 事務局長の選任について 8. 宮城学院女子大学学則の改定について 9. 宮城学院女子大学大学院学則の改定について 10. 宮城学院女子大学名誉教授規程の一部改正について 11. 役員に対する補償契約について 12. 役員賠償責任保険契約について

(2) 常任理事会の開催状況

開催年月日	議 題
2020（令和2）年 4月7日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度中高不登校支援コーディネーターの契約更改について 2. 限定正教職員制度の導入について 3. 給与規程の一部改正（中高休日クラブ手当）について 4. 2020年度資金運用計画について 5. 2019年度内部監査報告について（報告） 6. 新型コロナウイルス感染症に係る対応について
5月12日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年度事業報告（案）について 2. 大学専任教員の退職について 3. 宮城学院限定正教職員就業規則の制定について 4. 寄附行為の一部改正について
5月19日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2019年度事業報告（案）について 2. 2019年度決算（案）について 3. 2019年度資産運用報告について 4. 寄附行為第28条第1項第4号評議員(学識経験者)の補充について 5. 2020年度大学業務限定正職員(教務)の採用計画について 6. 2020年度こども園嘱託保育教諭（産休代替）の採用について 7. 2021年度中高専任教員(英語科)採用計画について 8. 2021年度中高契約教員(英語科)採用計画について 9. 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生等に対する緊急支援について 10. 2019年度大学経常費補助金の総括について(報告) 11. 2019年度中高運営費補助金の総括について(報告)
5月21日（木）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学業務限定正職員（教務）の採用について 2. 宮城学院女子大学学則の改定について
5月26日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事務局人事について
6月2日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度一時金について
6月9日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専任事務職員の退職について 2. 産業医の選任について 3. 2020年度内部監査計画について 4. 2020年度一時金について 5. 講義館外壁改修工事について 6. 宮城学院施設修繕準備調査報告について
6月16日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度大学教員採用計画について 2. 大学テニユア・トラック教員テニユア審査について 3. 新型コロナウイルス感染症緊急修学支援給付奨学金について
6月23日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度こども園非常勤保育教諭の採用計画について
7月7日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2020年度中高非常勤講師(数学科)採用計画について 2. 2020年度中高産休代替非常勤講師(社会科)採用計画について 3. 2021年度再雇用について 4. 2020年8月事務局人事について 5. 宮城学院就業規則の改正について

	<ol style="list-style-type: none"> 6. 東日本大震災により被災した学生生徒等に係る授業料等の減免に関する規程の一部改正について（中学校・高等学校） 7. 温水ボイラー2台及び主ポンプ1台更新工事の契約について 8. 第二講義館耐震補強工事の契約について 9. 礼拝堂ベルタワー耐久性強化改修工事・礼拝堂屋上防水漏水及び外壁漏水対策工事の契約について
7月21日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 事務局人事について 2. 2021年度こども園嘱託保育教諭の採用計画について 3. 宮城学院女子大学学則の改定について 4. 宮城学院稟議関係規程の整備について 5. 宮城学院奨学会規程の適用範囲の明確化について 6. 第4次中期財政計画中間総括について 7. 高等学校における留学生等受け入れ施策について 8. 学術情報館設計業務委託契約の締結について 9. ネットワーク機器更新及びネットワークケーブル敷設工事の契約について
8月4日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宮城学院女子大学学則の改定について 2. 2020年度大学特任教員(日本文学科)「図書館情報学」の採用について 3. 宮城学院女子大学予算委員会規程の制定について 4. 宮城学院女子大学自己点検・評価規程の改定について 5. 2021年度大学教員特別研修休暇について 6. 学術情報館（新館）建設委員会の設置について 7. 2020年度中高外国人非常勤講師（英語科）の採用について
8月25日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度中高専任教員（英語科）の採用について 2. 専任事務職員の退職について
9月8日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 中高特任教員（英語科）の退職について 2. 2020年度中高特任教員の退職に伴う後任者について 3. 2020年度事務職員採用計画について 4. 2020年度こども園非常勤保育教諭の採用計画について 5. 事務嘱託職員(キャリア支援課)の退職について 6. 2020年度事務嘱託職員(キャリア支援課)の退職に伴う採用計画について 7. 宮城学院高等学校授業料減免規程の一部改正について 8. 宮城学院高等学校入学金減免規程の制定について 9. 学術情報館（ロッカー室改修等）建築設計・監理業務委託契約の締結について
9月23日（水）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宮城学院高等学校学則改定について 2. 宮城学院稟議関係規程の整備について(継続) 3. 宮城学院限定正教職員就業規則の一部改正について 4. 育児休業及び介護休業に関する規程の対応について 5. 東日本大震災により被災した学生生徒等に係る授業料等の減免に関する規程の一部改正について（こども園） 6. 事務局人事について 7. 2020年度事務嘱託職員(音楽教室)の採用について 8. 2021年度こども園業務限定正教員の採用計画について

	9. 2021年度こども園嘱託保育教諭の採用計画について
10月6日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度大学教員採用計画について 2. 2021年度中高契約教員(英語科)採用計画について 3. 専任事務職員病気休暇者の代替職員採用計画について 4. 宮城学院女子大学三役会議規程の改定について 5. 宮城学院女子大学科長会規程の改定について 6. 宮城学院女子大学入試センター規程の改定について 7. 宮城学院女子大学総合型選抜に関する内規の改定について 8. 宮城学院女子大学外国人学生の入学に関する細則の改定について 9. 2021(令和3)年度文部科学省概算要求について(報告)
10月20日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 宮城学院就業規則の一部改正について(専門業務型裁量労働制の導入) 2. 宮城学院限定正教職員就業規則の一部改正について(限定正教員(こども園)給料表の追加)
11月10日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学専任教員(教育学科)「幼児教育または保育(保育内容指導法)担当」の採用について 2. 大学専任教員(日本文学科)「日本文学(近代文学)担当」の採用について 3. 大学一号特任教員(一般教育部)「キリスト教学担当」の採用について 4. 2021年度こども園嘱託保育教諭の採用について 5. 2021年度大学教員人事計画について 6. 大学スポーツ振興専門員(パートタイマー)採用人事計画について 7. 中高ICT活用授業推進のための生徒用iPadの整備について
11月17日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 理事会運営について 2. 2020年度補正予算(案)について 3. 2021年度予算編成方針案について 4. 学術情報館の建設場所について 5. 2021年度中高常勤講師(英語科)の採用について 6. 2020年度上半期資産運用状況について(報告)
12月1日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学副手の退職について 2. 大学一号特任教員(英文学科)「応用言語学あるいは英語教育学担当」の採用について 3. 2021年度こども園嘱託保育教諭の採用について 4. 2021年度大学教員人事計画(案)について 5. 2020年度大学臨時副手(教育学科健康教育専攻 実験・実習系授業補助員)の人事計画(案)について 6. 2020年度一時金について 7. 2020(令和2)年人事院勧告について(報告)
12月15日(火)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 2021年度中高教員人事計画について 2. 2021年度青桜シャロン寮寮職員採用計画について 3. 2021年度中高教務嘱託職員採用計画について 4. 2021年度中高スクールカウンセラー採用計画について 5. 2021年度中高不登校支援コーディネーターの採用計画について 6. 2021年度事務局業務限定正職員(一般)の採用計画について

	<ul style="list-style-type: none"> 7. 2021年度事務局嘱託職員等の採用計画について 8. 宮城学院女子大学図書館国立国会図書館デジタル化資料送信サービス利用規程の制定について 9. 育児休業及び介護休業に係る規程の一部改正について
12月22日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2021年度大学専任教員(教育学科)「社会福祉学(ソーシャルワーク)担当」の採用について 2. 2021年度こども園業務限定正教員の採用について 3. 2021年度専任事務職員の採用について 4. 宮城学院女子大学教授会採用人事および昇任人事に関する規程の改定について 5. 「宮城学院女子大学社会連携センター規程」および「宮城学院女子大学音楽リエゾンセンター規程」の改定について 6. 2020年度学校法人宮城学院分電盤改修設計業務の契約について 7. 2020年度宮城学院女子大学音楽館法面復旧工事の契約について
2021(令和3)年 1月12日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 専任事務職員の退職について 2. 2021年度中高専任教員(理科)採用計画について
1月19日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2021年度大学一号特任教員(心理行動科学科)「スポーツ心理学担当」の採用について 2. 2021年度事務局嘱託職員の契約更改について 3. 大学専任教員の退職について 4. 学術情報館について 5. 施設修繕準備調査について
2月9日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 宮城学院学業特待奨学金(プールボー奨学金)に関する規程の一部改正について 2. 2021年度こども園嘱託保育教諭等の契約更改について 3. 施設アドバイザー(顧問)契約の更改について 4. 学術情報館(ロッカー室等改修)について
2月22日(月)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2021年度大学専任教員(教育学科)「臨床心理学担当」の採用について 2. 2021年度大学一号特任教員(教育学科)「健康スポーツ科学担当」の採用について 3. 2021年度専任事務職員(職務経験者)の採用について 4. 2021年度専任事務職員(施設設備関係職務経験者)の採用について 5. 2021年度業務限定正職員(一般)の採用について 6. 2021年度特命教員(一般教育部)の採用計画について 7. 2021年度教務嘱託職員等の採用計画について 8. 宮城学院女子大学名誉教授推薦規程の改定について 9. 宮城学院女子大学生生活助成給付金に関する規程の制定について
3月2日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2021年度事業計画(案)について 2. 2021年度予算(案)について 3. 宮城学院女子大学名誉教授規程の一部改正について 4. 2021年度中高契約教員(常勤講師・国語科)の採用について 5. 2021年度中高契約教員(特任教員・英語科)の採用について 6. 2021年度中高専任教員(理科)の再募集について

	<ol style="list-style-type: none"> 7. 2021年度中高契約教員（常勤講師・社会科）の再募集について 8. 大学昇任人事について 9. 2021年度大学二号特任教員（教育学科・一般教育部）の採用計画について 10. 2021年度大学特命教員（教育学科）の採用計画について 11. 2021年度業務限定正教員（大学）の採用計画について 12. 2021年度大学臨時職員（通称:スポーツ振興専門員・パートタイム）の再募集について 13. 2021年度大学特任・特命教員の契約更改について 14. 2021年度子ども園臨時職員（通称:シルバーパート）の採用計画について 15. 防災アドバイザー（顧問）の契約更改について 16. 2021年度4月事務局人事について 17. 宮城学院女子大学特命教員規程の改定について 18. 宮城学院女子大学広報委員会規程の制定について 19. 宮城学院女子大学三役会議規程の改定について 20. 宮城学院女子大学学長連絡会議規程の改定について 21. 宮城学院女子大学学長戦略室規程の改定について 22. 新型コロナウイルス感染症に伴う2021年度学生支援について 23. 中高組合春闘要求に対する回答について
3月9日（火）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第5次中期計画（案）について 2. 2021年度事業計画（案）について（継続） 3. 第2号基本金「大学研究室冷房設備整備資金」の新規組入計画について 4. 第2号基本金「学術情報館建設資金」組入計画変更について 5. 第3号基本金「宮城学院奨学基金」組入計画変更について 6. 2021年度予算（案）について（継続） 7. 事務局長の選任について 8. 宮城学院女子大学学則の改定について 9. 宮城学院女子大学大学院学則の改定について 10. 学校法人宮城学院と役員との補償契約について 11. 役員賠償責任保険契約について 12. 大学専任教員の退職について 13. 2021年度大学特命教員（社会福祉学（ソーシャルワーク））の採用計画について 14. 2021年度大学教務嘱託職員等の契約更改について 15. 2023年度大学一号特任教員(教職センター主任)の採用計画について 16. 2021年度中高契約教員（特任教員(スタディーモール担当)）の契約更改について 17. 2021年度中高特任教員並びに常勤講師の契約更改について 18. 2021年度中高教務嘱託職員の契約更改について 19. 2021年度中高スクールカウンセラーの採用（新規及び契約更改）について 20. 2021年度中高不登校支援コーディネーターの採用について 21. 2021年度子ども園人事採用計画について 22. 2021年度事務局人事について 23. 2021年度事務職員採用計画について

	<ul style="list-style-type: none"> 24. 旅費規程の一部改正について 25. 2021年度大学役員等について 26. 2021年度中高執行体制について
3月17日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2021年度大学一号特任教員(一般教育部)「健康スポーツ科学担当」の採用について 2. 専任事務職員(施設設備関係職務経験者)の採用内定取り消しについて
3月23日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 名誉教授候補者の推薦について 2. 2021年度大学教育学科特命教員の採用について 3. 2021年度大学一般教育部二号特任教員の採用について 4. 2021年度業務限定正教員(大学)の採用について 5. 2021年度大学教務嘱託職員(食品栄養学科助手)の採用について 6. 2021年度大学教務嘱託職員(一般教育部副手)の採用について 7. 2021年度大学教員人事計画について 8. 2021年度こども園嘱託保育教諭の採用計画について 9. 2021年度こども園非常勤保育教諭の採用計画について 10. 2021年度こども園職員に対する勤務変更について 11. こども園非常勤保育教諭就業規則の一部改正について 12. 新型コロナウイルス感染症学生支援の実施について 13. 大学組合等への回答について
3月25日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2021年度中高専任教員(理科)の採用について 2. 2021年度中高契約教員(常勤講師・社会科)の採用について 3. 2021年度中高契約教員(特任教員)の契約更改について 4. 2021年度大学教務嘱託職員(教育学科助手)の採用について 5. 2021年度専門職嘱託職員(大学保健センター)の採用について 6. 2021年度事務職員採用計画について
3月31日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2021年度こども園嘱託保育教諭の採用について 2. 給与規程(役職手当)の一部改正について 3. 内部監査体制について 4. 宮城学院人文館2階他改修工事の契約について

(3) 評議員会の開催状況

開催年月日	議 題
2020(令和2)年 5月26日(火) (定期)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 2019年度事業報告について 2. 2019年度決算について 3. 寄附行為第8条第1項第9号理事(評議員選出)の推薦について
11月24日(火) (定期)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 寄附行為の一部改正について 2. 2020年度補正予算(案)について
2021(令和3)年 3月16日(火) (定期)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 第5次中期計画(案)について 2. 2021年度事業計画(案)について 3. 2021年度予算(案)について

2. 法人、大学、中学校高等学校及びこども園の主要な行事等

(1) 法人（理事会・評議員会を除く）

年 月 日	行 事 等
2020（令和2）年 4月1日 22日 27日	新任教職員辞令交付式 全学院教職員礼拝（中止） 新任教職員歓迎茶話会（中止） 公認会計士監査
5月13日～14日 17日 27日	公認会計士監査 監事監査 ホームカミングデー（中止） 全学院教職員礼拝
6月8日 22日 24日 26日	公認会計士監査 教職員健康相談 全学院教職員礼拝 教育基金運営委員会 奨学金委員会
7月7日 13日 22日	公認会計士・常任理事・監事懇談会 教職員健康相談 全学院教職員礼拝
8月17日 11日～14日	事務職員全体研修会（延期） 教職員健康相談 一斉休暇
9月14日 18日 24日～25日	教職員健康相談 創立念礼拝・墓前礼拝 永年勤続者表彰式 公認会計士監査
10月8日・9日 12日 15日 21日 26日	教職員健康診断 事務職員全体研修会（オンライン） 全学院防災訓練 全学院教職員礼拝 教職員健康相談
11月25日 27日 30日	全学院教職員礼拝 クリスマス・イルミネーション点灯式 教職員健康相談
12月3日～4日 5日 14日 18日 中旬 24日 26日～1月3日	公認会計士監査 クリスマス・チャペルコンサート（中止） 教職員健康相談 宮城学院クリスマス礼拝 宮城学院クリスマスマーケット（中止） 仕事納め 冬期休業
2021（令和3）年	

年 月 日	行 事 等
1月4日 25日	仕事始め 全学院新年礼拝 教職員健康相談
2月上旬 17日 22日	ハートフルボランティア報告会（中止） 全学院教職員礼拝 教職員健康相談
3月11日 22日 23日 22日～23日	大震災記念礼拝 教職員健康相談 退職者辞令交付式 公認会計士監査

(2) 大学院・大学

年 月 日	行 事 等
2020（令和2）年 4月3日 17日 27日～5月1日	入学式（延期） 学友会春季総会（中止） 新入学生・編入学生・在学生ガイダンス（中止）
5月7日 22日 30日	前期授業開始 新入生歓迎会（中止） 大学後援会総会（中止）
6月10日 28日	キリスト教教育特別集会（中止） オープンキャンパス（web開催）
7月25日 中旬	「音楽の世界」合同発表会（中止） 小学生のためのサマーカレッジ（中止）
8月2日 12日 13日～19日 17日～9月7日 20日～29日 20日～9月11日	オープンキャンパス（web開催） 前期授業終了日 補講 英文学科海外研修（カナダ）（中止） 連続講義 夏季休業
9月12日 27日 30日	後期授業開始 オープンキャンパス 9月期卒業生学位記授与式
10月3日 8日 10月10日～11日 17日 20日 24日	総合型選抜（一次選考） 総合型選抜（一次選考）結果通知 大学祭（一般公開中止） オープンキャンパス（web開催） 大学院入試（第1回） 大学院入試（第1回）合格発表 総合型選抜（二次選考）
11月2日 17日	総合型選抜合格発表 学友会秋季総会（中止）

年 月 日	行 事 等
21 日	学校推薦型選抜・編入学・TOEIC 編入学・特別入試、転学科試験
12 月 2 日	学校推薦型選抜・編入学・TOEIC 編入学・特別入試、転学科試験合格発表 オープンキャンパス クリスマス礼拝 (web 配信) 年内授業終了日 冬季休業
5 日	
8 日	
23 日	
26 日～1 月 4 日	
2021 (令和 3) 年	授業開始日 大学入学共通テスト 後期授業終了日 補講
1 月 5 日	
16 日～17 日	
29 日	
30 日～2 月 2 日	
2 月 3 日	音楽科専門試験 (一般選抜 (A 日程)・共通テスト利用選抜 (A 日程)) 一般選抜 (A 日程) 春季休業 連続講義 一般選抜 (A 日程)、大学入学共通テスト利用選抜 (A 日程) 合格発表 特別入試 (外国人留学生) 教育学科幼児教育専攻海外研修 (スウェーデン) (中止) 大学院入試 (第 2 回) 特別入試 (外国人留学生) 合格発表 大学院入試 (第 2 回) 合格発表
4 日	
3 日～4 月 4 日	
5 日～13 日	
16 日	
18 日	
20 日～27 日	
25 日	
26 日	
27 日	
3 月 9 日	
12 日	
17 日	
19 日	
22 日	
23 日	
25 日	
25 日	

(3) 中学校高等学校

年 月 日	行 事 等
2020 (令和 2) 年	中学 1 年、高校 1 年オリエンテーション (中止) 入学式 PTA 総会 (中止) 始業式
4 月 10 日	
18 日	
20 日	
5 月 16 日	運動会 (中止) キリスト教教育週間 イースター礼拝
20 日～26 日	
21 日	
6 月 6 日～8 日	宮城県高校総体 (中止) 仙台市中学総体 (中止)
13 日～15 日	
7 月 8 日～10 日	中学 1 年リトリートキャンプ (中止)

年 月 日	行 事 等
14 日 18 日 31 日	中学 1 年リトリート・デー 中学校オープンキャンパス（延期） 終業
8 月 1 日～23 日 1 日 8 月 24 日 29 日	夏期休業 高等学校オープンキャンパス（web 開催） 中学校オープンキャンパス（web 開催） 始業 高等学校 1・2 年スタディサポート 文化祭（中止）
9 月 16 日 17 日 19 日 28 日 30 日	創立記念礼拝 中学校創立記念行事 オンライン MG 祭（web 配信） 高等学校校前期終業 中学校前期終業
10 月 1 日 5 日～7 日 10 日 10 日～11 日 13 日 17 日 23 日 27 日 27 日～31 日	中学校・高等学校校後期始業 中学 3 年校外研修旅行（中止） 中学校学校説明会 中学校仙台市新人大会 収穫感謝礼拝 高等学校学校説明会 中学校スポーツ大会 高等学校スポーツ大会 高校 2 年校外研修旅行（延期）
11 月 14 日	中学校高等学校入試対策講座
12 月 12 日 21 日 22 日～1 月 11 日	クリスマス礼拝（web 配信） 終業 冬期休業
2021（令和 3）年 1 月 7 日 8 日 12 日 13 日 15 日 28 日～29 日	中学校入学試験 中学校入学試験合格発表 始業 高等学校推薦入学試験 高等学校推薦入学試験合格発表 高校 2 年校外研修旅行代替小旅行（中止）
2 月 2 日 4 日 6 日	高等学校入学試験 A 日程 高等学校入学試験 B 日程 高等学校入学試験合格発表
3 月 1 日 18 日 19 日 24 日 25 日	高等学校卒業証書授与式 中学校卒業証書授与式 終業式 新中学 1 年生オリエンテーション 新高校 1 年生オリエンテーション

(4) 大学附属認定こども園「森のこども園」

年 月 日	行 事 等
2020 (令和 2) 年 4 月 9 日 11 日 23 日	第 1 学期始業式 入園式 イースター礼拝 (中止)
5 月 12 日 19 日 26 日 11 日～25 日	親子ウォーキング (5 歳児) (中止) 親子ウォーキング (3 歳児) (中止) 親子ウォーキング (4 歳児) (中止) 森で遊ぼう
6 月 11 日	花の日礼拝
7 月 7 日 18 日～19 日 31 日	七夕 5 歳児サマーキャンプ (中止) 第 1 学期終業式
8 月 1 日～23 日 1 日 24 日	夏期休業 Day キャンプ (5 歳児) 第 2 学期始業式
9 月 17 日 20 日	創立記念礼拝 運動会 (中止)
10 月 5 日・6 日・15 日 10 月 8 日 9 日 27 日	緑の中であそびたいかい 秋の遠足 (中止) 1 号認定入園説明会 2・3 号認定入園説明会
11 月 1 日 5 日 6 日～17 日	入園願書受付 新入園児オリエンテーション 収穫感謝礼拝 秋の自然をかんじたいかい
12 月 9 日 10 日 24 日 25 日～1 月 6 日	クリスマス祝会 (1 グループ) クリスマス祝会 (2 グループ) 第 2 学期終業式 冬期休業
2021 (令和 3) 年 1 月 7 日	第 3 学期始業式
2 月 2 日	豆まき
3 月 4 日 5 日 13 日 19 日 22 日～4 月 8 日	修了礼拝 お別れ会 修了式 第 3 学期終業式 進級オリエンテーション (中止) 春期休業

3. 補助金の状況

○私立大学等経常費補助金<日本私立学校振興・共済事業団> (令和元年度)

学校別	区 分	補助事業に要する経費 (円)	補助金額 (円)	
大学	専任教員等給与費	1,095,164,000	121,149,000	
	内 訳	ア. 専任教員等給与費	1,028,202,000	109,399,000
		イ. 私立大学退職金財団掛金	66,962,000	11,750,000
	専任職員等給与費	487,227,000	54,420,000	
	内 訳	ア. 専任職員給与費	453,177,000	49,052,000
		イ. 私立大学退職金財団掛金	34,050,000	5,368,000
	非常勤教員給与費	173,521,000	7,003,000	
	教職員福利厚生費	128,441,000	19,163,000	
	教育研究経常費	1,215,522,000	105,020,000	
	厚生補導費	41,312,000	2,134,000	
	研究旅費	17,567,000	1,335,000	
合 計		3,158,754,000	310,224,000	

○特別補助(経常費補助金)内訳表

項目	補助金額 (円)
I 成長力強化に貢献する質の高い教育	11,476,000
地方に貢献する大学等への支援	1,650,000
被災地の復興支援	600,000
授業料減免事業等支援	2,366,000
授業料減免事業等支援(新型コロナウイルス感染症緊急経済対策分)	5,860,000
新型コロナウイルス感染症対策支援	1,000,000
II 社会人の組織的な受入れ	0
III 大学等の国際交流の基盤整備	0
IV 大学院等の機能の高度化	24,300,000
大学院生に対する授業料減免事業等支援	300,000
私立大学研究ブランディング事業(継続分)	24,000,000
V 経営強化等支援	0
VI 東日本大震災からの復興支援	0
VII 令和2年7月豪雨等からの復興支援	0
私立大学等改革総合支援事業	0
合計	35,776,000

○令和2年事業年度授業料等減免費交付金

事業の内容	交付金額 (円)
大学等における修学の支援に関する法律による修学支援	167,782,300

○私立学校運営費補助金＜県補助＞（令和２年度）

	内訳				補助対象経費 (円)	補助金額 (円)
	人件費(円)	経費(円)	設備費(円)	計(円)		
高等学校	329,883,130	172,747,503	775,996	503,406,629	251,703,315	187,201,000
中学校	164,453,642	78,507,391	218,036	243,179,069	121,589,535	55,102,000
こども園	108,321,652	20,924,755	0	129,246,407	64,623,204	1,092,000
合計	602,658,424	272,179,469	994,032	875,832,105		243,395,000

○私立学校教育改革推進特別経費補助金＜県補助＞（令和２年度）

区分 学校別	補助対象経費		補助金額(円)
	人件費(円)	経費(円)	
高等学校	2,195,894	1,957,347	1,050,000
中学校	1,055,391	940,740	1,050,000
こども園	0	1,753,259	450,000
合計	3,251,285	4,651,346	2,550,000

○仙台市私立学校振興補助金＜市補助＞（令和２年度）

区分 学校別	補助対象経費				補助金額(円)
	図書購入費 (円)	教材教具 購入費 (円)	学校管理用 備品購入費 (円)	計 (円)	
高等学校	950,009	1,060,955	198,220	2,209,184	2,200,000
中学校	308,139	0	0	308,139	307,600

○子ども・子育て支援制度 教育・保育給付費＜在園児所在市町村補助＞（令和２年度）

事業名称	補助金額(円)
こども園の運営に係る補助	136,382,155

○認定こども園運営費補助金＜市補助＞（令和２年度）

事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
こども園の運営に係る補助	1,313,503	1,300,000

○保育士等就労スタートアップ事業補助金＜市補助＞（令和２年度）

事業の内容	補助金額(円)
保育施設等に従事する若手職員の処遇改善に係る補助	213,150

○仙台市新型コロナウイルス感染症対策補助金＜市補助＞（令和２年度）

事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
感染症対策物品の購入に係る補助	337,054	337,000

○新型コロナウイルス感染症対策臨時休業時特別開所支援事業補助金<市補助> (令和2年度)

事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
小学校の臨時休業に伴う児童クラブの特別開所に係る補助	286,658	286,658

○私立保育所等助成<市補助> (令和2年度)

事業名称	補助金額(円)
栄養士・看護師雇用助成	274,800
増員調理員助成	1,388,400
増員保育士等助成	3,564,000
障害児等保育助成	1,680,000
合計	6,907,200

○病原性大腸菌対策関連消耗品購入及び病原性大腸菌対策検便費助成<市補助> (令和2年度)

事業名称	補助対象経費(円)	補助金額(円)
病原性大腸菌対策関連消耗品購入助成	96,018	71,610
病原性大腸菌対策検便費助成		37,000
合計	96,018	108,610

○預かり保育(1号認定)<市補助> (令和2年度)

事業名称	補助対象経費(円)	補助金額(円)
預かり保育推進事業補助金	2,089,032	613,500
仙台市一時預かり事業(幼稚園型)補助金		1,431,560
合計	2,089,032	2,045,060

○延長保育事業費補助金(2号認定)<市補助> (令和2年度)

事業名称	補助対象経費(円)	補助金額(円)
延長保育	2,696,222	2,008,000

○地域子育て支援事業補助金(広場事業)<市補助> (令和2年度)

事業名称	補助対象経費(円)	補助金額(円)
子育て支援室	1,565,150	1,500,000

○放課後児童健全育成事業補助金<市補助> (令和2年度)

事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
宮城学院児童クラブ「森の家」	5,612,000	1,226,000

○結核定期健康診断補助金<市補助> (令和2年度)

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
高等学校	結核定期健康診断	146,410	97,606

○私立高等学校授業料軽減事業補助金＜県補助＞（令和2年度）

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
高等学校	授業料免除1名分	87,000	87,000

○私立高等学校授業料軽減特別事業補助金＜県補助＞（令和2年度）

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
高等学校	入学金・授業料・施設設備資金・教育充実資金免除(27名分)	10,621,618	8,031,000
中学校	入学金・授業料・施設設備資金・教育充実資金免除(12名分)	5,734,280	5,134,000
こども園	保育料・特定負担額免除(2名分)	240,000	50,000

○私立高等学校等入学金軽減事業補助金＜県補助＞（令和2年度）

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
高等学校	入学金免除5名分	175,000	175,000

○私立中学校就学支援実証事業費補助金＜県補助＞（令和2年度）

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
中学校	授業料等免除3名分	350,000	350,000

○私立大学等研究設備整備費等補助金（私立高等学校等ICT教育設備整備推進事業費）＜文科省＞

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
高校	HR教室等プロジェクト設置	5,277,580	2,638,000

○私立学校情報機器整備費補助金（児童生徒1人1台端末の整備事業）＜文科省＞

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
中学校	共有iPad設置	2,322,250	1,161,000

○私立高等学校安全設備整備事業補助金＜県補助＞

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
高校	ランディス館ホール排煙窓オペレーター修理、災害備蓄品購入	230,252	76,000

○学校保健特別対策事業補助金（学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援事業）＜文科省＞

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
高校	オンライン授業環境整備等	1,254,535	1,000,000

○学校保健特別対策事業補助金（学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援事業）＜文科省＞

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
中学校	オンライン授業環境整備等	527,723	500,000

○学校保健特別対策事業補助金（感染症対策のためのマスク等購入支援事業）＜文科省＞

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
高校	感染症対策消耗品等	126,000	63,000

○学校保健特別対策事業補助金（感染症対策のためのマスク等購入支援事業）＜文科省＞

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
中学校	感染症対策消耗品等	58,000	29,000

○学校保健特別対策事業補助金（学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援事業）＜県補助＞

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
高校	オンライン授業環境整備等	1,254,535	254,000

○学校保健特別対策事業補助金（学校再開に伴う感染症対策・学習保障等に係る支援事業）＜県補助＞

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
中学校	オンライン授業環境整備等	527,723	27,000

○学校保健特別対策事業補助金（感染症対策のためのマスク等購入支援事業）＜県補助＞

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
高校	感染症対策消耗品等	126,000	63,000

○学校保健特別対策事業補助金（感染症対策のためのマスク等購入支援事業）＜県補助＞

学校別	事業の内容	補助対象経費(円)	補助金額(円)
中学校	感染症対策消耗品等	58,000	29,000

○研究助成（令和2年度）

学校別	研究代表者	研究区分	補助金額(円)
高校	溝上 豊	科学教育振興助成(中谷医工計測技術振興財団)	300,000
高校	溝上 豊	高等学校理科教育振興助成(武田科学振興財団)	300,000
中学校	鎌田 隆史	中学校理科教育振興助成(武田科学振興財団)	300,000

○科学研究費助成事業<文部科学省・日本学術振興会補助> (令和2年度)

学校別	研究代表者	研究区分	補助金額 (円) (直接経費)	補助金額 (円) (間接経費)
大 学	永田 貴聖	基盤研究 (C) 継続	500,000	150,000
	大谷 尚之	基盤研究 (C) 継続	700,000	210,000
	伊藤 哲章	基盤研究 (C) 継続	650,000	195,000
	太田 峰夫	基盤研究 (C) 継続	800,000	240,000
	鈴木 雅之	基盤研究 (C) 継続	800,000	240,000
	松本 晴子	基盤研究 (C) 継続	100,000	30,000
	河津 基	基盤研究 (C) 継続	600,000	180,000
	澤邊 裕子	基盤研究 (C) 継続	300,000	90,000
	吉村 典子	基盤研究 (C) 継続	200,000	60,000
	平川 新	基盤研究 (C) 継続	500,000	150,000
	西浦 和樹	基盤研究 (C) 継続	400,000	120,000
	足立 智昭	基盤研究 (C) 継続	250,000	75,000
	巖 爽	基盤研究 (C) 継続	1,100,000	330,000
	森 康浩	基盤研究 (C) 継続	800,000	240,000
	大久保 尚子	基盤研究 (C) 継続	700,000	210,000
	戸野塚 厚子	基盤研究 (C) 継続	700,000	210,000
	木村 春美	若手研究 継続	600,000	180,000
	藤田 嘉代子	若手研究 継続	100,000	30,000
	松原 弘子	若手研究 継続	400,000	120,000
	木曾 恵子	特別研究員奨励費※1 継続	600,000	180,000
	李 敬淑	基盤研究 (C) 新規	1,100,000	330,000
	間瀬 幸江	基盤研究 (C) 新規	400,000	120,000
	木口 寛久	基盤研究 (C) 新規	700,000	210,000
	板橋 夏樹	基盤研究 (C) 新規	400,000	120,000
	本間 義規	基盤研究 (C) 新規	2,000,000	600,000
	蒔苗 詩歌	若手研究 新規	800,000	240,000
	今野 孝一	研究活動スタート支援 新規	600,000	180,000
	合計		16,800,000	5,040,000

※1 キリスト教文化研究所 客員研究員・日本学術振興会 特別研究員

4. 入学志願者、合格者、入学者数

(2020年5月1日 学校基本調査)

			入学定員	志願者数	合格者数	入学者数	
大 学 院	修 士 課 程	人文科学研究科	英語・英米文学専攻	4	1	0	0
			日本語・日本文学専攻	4	3	1	1
			人間文化学専攻	4	0	0	0
			生活文化デザイン学専攻	4	0	0	0
	健康栄養学研究科	健康栄養学専攻	4	3	3	3	
大学院合計			20	7	4	4	

			入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
大 学	現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	95	240	190	112
	教育学部	教育学科幼児教育専攻	90	181	134	93
		教育学科児童教育専攻	50	238	171	66
		教育学科健康教育専攻	30	119	53	33
	生活科学部	食品栄養学科	100	289	175	106
		生活文化デザイン学科	60	132	119	71
	学芸学部	日本文学科	100	239	169	109
		英文学科	70	219	158	80
		人間文化学科	70	158	141	75
		心理行動科学科	60	198	97	71
		音楽科	25	29	24	15
大学合計			750	2,042	1,431	831
3年次編入学			—	12	11	9

		入学定員	志願者数	合格者数	入学者数
高等学校		260	560	514	124
中学校		160	79	72	59

※「5. 学部・学科等の入学定員、学生・生徒・園児数」(4ページ)の1年生の数は在籍者数(休学者・留年者・留学者・再入学者等を含む数)となっており、本データの入学者数と同数ではない。

5. 寮生数

(2020年5月1日現在)

さくら寮	青桜シャロン寮	合計
大学 156名	高校 20名	176名

6. 2020 年度就職内定状況

(2021 年 5 月 1 日現在)

学 部	学 科	卒業 学生数 (A)	求職者数 (B)	就職 内定者数 (C)	内定率 (C) / (B)
現代ビジネス学部	現代ビジネス学科	95	88	83	94.3%
教育学部	教育学科 幼児教育専攻	91	89	88	98.9%
	教育学科 児童教育専攻	59	57	57	100.0%
	教育学科 健康教育専攻	34	26	25	96.2%
生活科学部	食品栄養学科	103	99	98	99.0%
	生活文化デザイン学科	46	39	34	87.2%
学芸学部	日本文学科	100	74	70	94.6%
	英文学科	75	69	66	95.7%
	人間文化学科	56	42	37	88.1%
	心理行動科学科	62	51	50	98.0%
	音楽科	22	11	9	81.8%
	国際文化学科	2	2	0	0.0%
	合計	745	647	617	95.4%